

令和7年度 学校研究

地域社会とつながり、持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成

～主体性と問題発見・解決能力を育む「みらい探究科」のカリキュラム作りを通して～

【令和6～8年度 小松市教育委員会指定 未来の学びづくり研究事業】



小松市立松東みどり学園



目次

I 研究概要

1. 研究主題
2. 主題設定の理由
3. 研究組織
4. 研究構想図
5. 研究計画

II 取り組み概要

III まとめ

1. 研究の成果と課題
2. 今後に向けて

IV 資料

1. カリキュラム 未来探究科探究過程
2. 授業実践
 - ①未来探究科 前期課程
 - ②未来探究科 後期課程
 - ③外国語科 未来探英語

I 研究概要

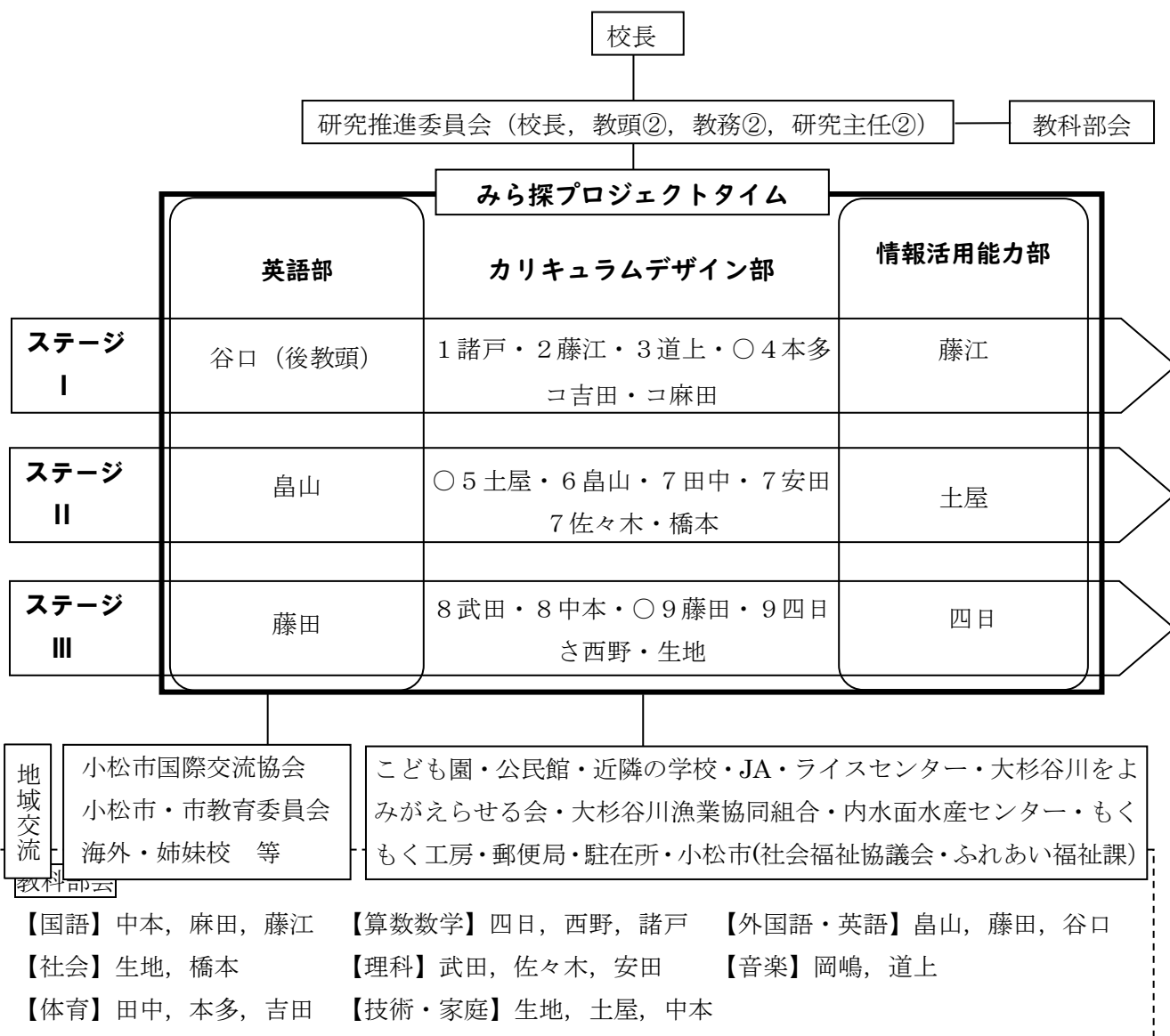
1. 研究主題

地域社会とつながり、持続可能な社会の創り手となる児童生徒の育成
 ～主体性と問題発見・解決能力を育む「みらい探究科」のカリキュラム作りを通して～
 【令和6～8年度 小松市教育委員会指定 未来の学びづくり研究事業】

2. 主題設定の理由

今日、VUCA時代と言われる変化が激しく予測困難な現代を持続可能な社会へと構築できる人材が求められている。それはSDGsの視点を持ち、グローバルに他者と協働しながら、自己の資質・能力を発揮し、諸課題を発見・解決することができる人材である。そのためには、地域社会と学校教育との有機的なつながりを基盤としつつ、各教科等と「みらい探究科」において育成される資質・能力との相互作用のもと、主体性を養い、問題発見・解決能力が発揮できるようなカリキュラムの創造・実践が必要であると考え、本研究主題を設定した。

3. 研究組織



4. 研究計画

(1) 未来の学びづくり研究事業 R6～8年

	①カリキュラムの見直し	②授業づくりと評価	③地域
1年目	<ul style="list-style-type: none"> 「プロジェクトタイム」1～9年見直し⇒新カリキュラム作成 カリキュラムマップ見直し(各教科との関連について) 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科との系統性, 評価方法の検討を共有(教科部会) 重点単元における授業実践 プロジェクトタイムの授業実践 	地域人材の活用や関係機関との連携
2年目	<ul style="list-style-type: none"> みらい探究科カリキュラムの見直し1～9年見直し⇒新カリキュラム作成と試行 「プロジェクトタイム」単元計画への「情報活用能力」の位置づけ 「英語コミュニケーション」⇒外国語活動, 外国語科にみらい探究科と関連を図る「みら探英語」の設定とカリキュラム作成 グローバルタイム(1, 2年)のカリキュラムの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトタイムの授業実践と評価 外国語活動, 外国語科における「みら探英語」の授業実践と評価 グローバルタイム(1, 2年生)の授業実践と評価 	
3年目	<ul style="list-style-type: none"> 「みらい探究科」新カリキュラムの試行と授業改善 外国語活動, 外国語科にみらい探究科と関連を図る「みら探英語」の新カリキュラムの試行と授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> 「みらい探究科」新カリキュラムによる授業実践と評価 外国語活動, 外国語科における「みら探英語」の授業実践と評価 	

(2) 今年度の研究内容

①みらい探究科カリキュラムの見直しと試行

プロジェクトタイム

- 探究過程を明確にして, 1～9年のカリキュラムを見直す。

コミュニケーションタイム

- 「情報」は情報活用能力の育成を目指し, 「プロジェクトタイム」に位置付ける。情報活用能力は, 各教科等とも関連を図り 9年間の系統性を重視したカリキュラムを作成する。
- 「英語コミュニケーション」は英語でのコミュニケーション力の育成を目指し, 外国語活動, 外国語科, 英語科に「みら探英語」の時間を新たに設定し, みらい探究科(プロジェクトタイム)と関連を図る。
「みら探英語」の時間では, 外国語活動, 外国語科, 英語科で学習した言語活動を活用して, みらい探究科(プロジェクトタイム)の内容を発信したり, コミュニケーションを深めたりする。

②探究的な学びを深める授業づくりと評価

- 探究的な学習過程における ICT を活用した指導方法を工夫する。
- 各プロセスにおける適切な評価規準の設定と, 探究を支えるワークシートの検討など, 具体的に多様な評価方法を開発する。

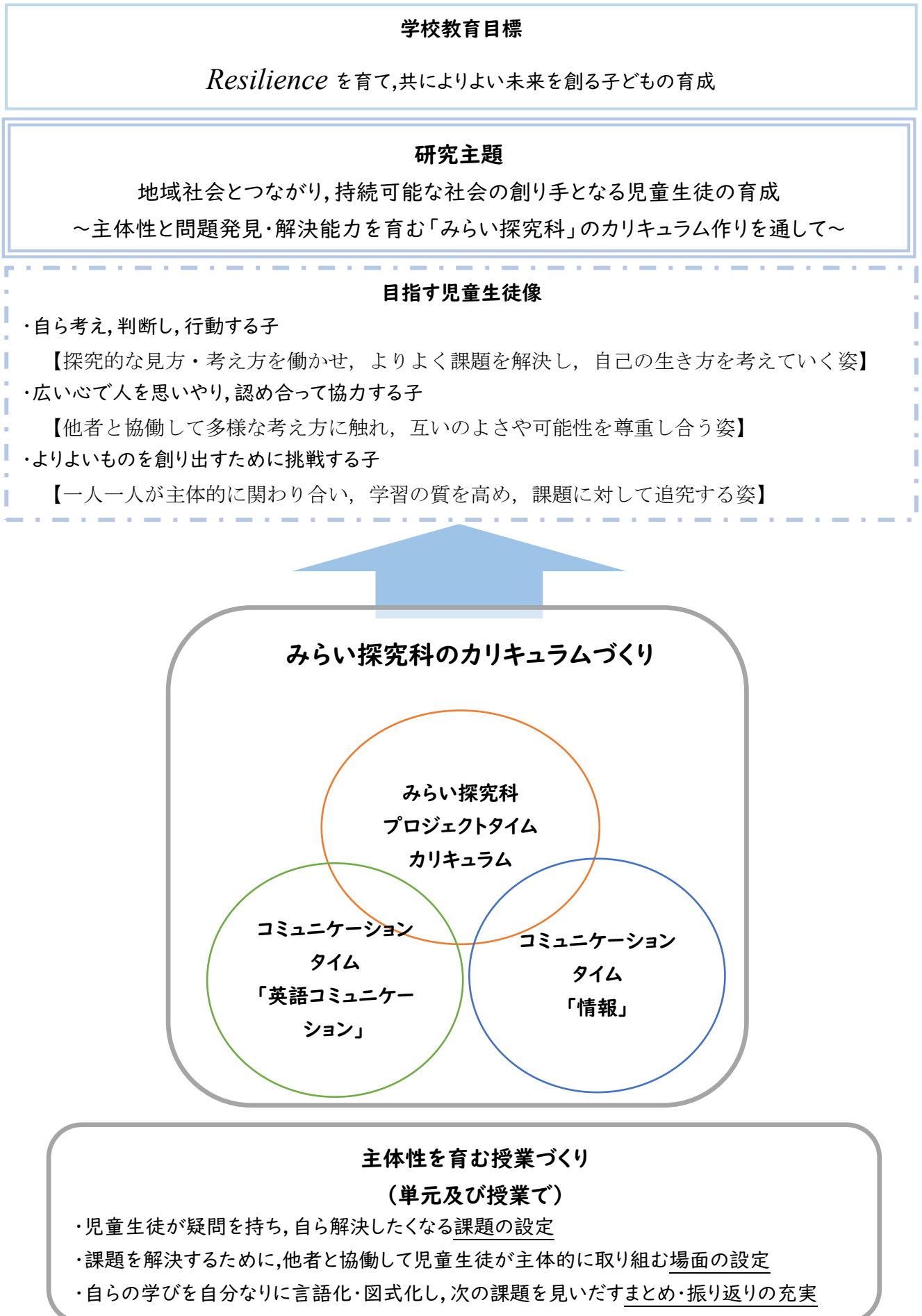
③地域社会との連携

- 探究的な学習のプロセスにおいて, 保護者や地域の人, 専門家などの様々な人的資源と地域施設, 環境, 産業などの経営資源等を効果的に活用する。
- 地域人材や関係機関との持続可能な連携方法を構築する。

④教科研究

- 各教科における学習課題の設定と学習形態を工夫し, 探究的な学びが日常となるようにする。
- 教科横断的な視点をもって学習過程を設定し, 各教科等と「みらい探究科」で育成した資質・能力が往還的に発揮できるようにする。
- 義務教育学校の特色を生かして教科部会を開き, 教員一人一人の専門性を高め, 授業の質的向上を目指す。

5. 研究構想図



6. 研究年間計画

4月	4月7日(月) 研究推進委員会① 今年度の学校研究の方向性について 4月15日(火) 校内研修会 今年度の研究の方向性について 講師：筒井 CCO 4月18日(金) 校内研修会① 今年度の研究の方向性, プロジェクトタイムカリキュラムデザインについて 講師：北海道教育大学教職大学院 教授 渋谷一典先生 オンライン 4月30日(水) 校内研修会② 情報活用能力カリキュラムデザインについて 講師：放送大学 准教授 小林 祐紀先生
5月	5月15日(木) 研究推進委員会② みら探英語・情報活用 授業実践について 5月27日(木) 校内研修会③ プロジェクトタイムカリキュラムデザイン見直しについて 講師： 渋谷一典 先生 オンライン
6月	6月19日(木) 校内研修会④ 講師：小林 祐紀先生 6月30日(月) 研究推進委員会③ 計画訪問について 6月下旬 提案授業
7月	7月10日(木) 校内研修会⑤ 講師：小林 祐紀先生 ・児童生徒・教員アンケート 7月中旬 研究全体会①(1) 1学期の実践ふり返りアンケート 検証方法・内容の確認 (2) 2学期以降のみらい探究科について (3) 計画訪問に向けて
8月	8月上旬 校内研修会⑥(1) 計画訪問研究授業に向けた模擬授業：5年 (2) 計画訪問に向けて(各教科単元計画の作成) 8月下旬 研究全体会②(1) 2学期の取組の重点の確認 (2) 児童生徒・教員アンケート・学校評価アンケートの分析 (3) 校内研究授業に向けた指導案検討：6年
9月	9月11日(木) 計画訪問 研究授業 (5年 みらい探究科 授業者：土屋 海奈) 9月12日(金) 校内研修会⑦みら探英語 研究授業 授業者：6年畠山 祐輔 英語科 研究授業 授業者：9年藤田 和香奈 講師：関西外国語大学 教授 直山 木綿子先生
10月	10月初旬 校内研修会⑧ 校内研修会に向けた指導案検討
11月	11月11日(火) 校内研修会⑨ 研究授業(8年 みらい探究科 授業者：武田 知亜紀) 講師：北海道教育大学教職大学院 教授 渋谷 一典先生
12月	・児童生徒・教員アンケート 12月24日(水) 研究全体会③ 2学期の実践ふり返りアンケート 検証方法・内容の確認
1月	1月上旬 研究全体会④ (1) 3学期の取組の重点の取組 (2) 児童生徒・教員アンケート・学校評価アンケートの分析
2・3月	2月17日(火) 研究推進委員会 2月中旬 研究全体会⑤ 今年度のふり返りと来年度に向けて

講師：北海道教育大学 教職大学院 教授 渋谷 一典 先生
放送大学 准教授 小林 祐紀 先生
関西外国語大学 教授 直山 木綿子 先生
学校教育課 筒井 恭子チーフカリキュラムオフィサー

II 取り組み概要

1 みらい探究科カリキュラムの見直しと試行

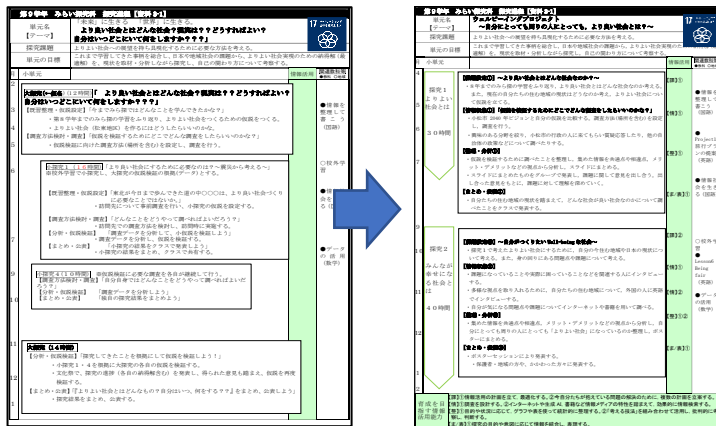
(1) プロジェクトタイム

- ・みらい探究科カリキュラム「探究過程」を見直した。児童生徒の実態と地域社会の実態を踏まえ、ステージⅡ、Ⅲの探究過程の見直しを重点的に進めた。

年3回の実施 7月：前期課程と後期課程で表記に違いがあった部分を統一

12月：ステージⅡ、Ⅲの探究内容の刷新、3～6年でのみら探英語の再検討

3月：探究過程最終調整



(2) コミュニケーションタイム

①情報

- ・「情報活用能力」は各教科等とも関連を図り、9年間の系統性を重視したカリキュラムを作成した。
- ・基本的操作の習得、プログラミング、情報モラル・セキュリティ、生成AI等についても検討した。
- ・プロジェクトタイムの探究過程を【課題設定】【情報収集】【整理分析】【まとめ発表】のプロセスで構成し、育成する情報活用能力を位置付けた。
- ・プロジェクトタイムの授業では、重視したい情報活用能力を明確にし、授業実践を行った。

【授業公開】

○9月11日 計画訪問 <5年みらい探究科【課題設定】 土屋教諭>

○11月11日 北海道教育大学 教職大学院教授 渋谷一典先生 指導助言

<8年みらい探究科【整理分析】 武田教諭>

<みらい探究科 授業の視点>

- i 本時の展開は、児童の思考に沿った適切なものであったか。
- ii 本時における情報活用能力の育成に対する手立ては、有効なものであったか。

②英語コミュニケーション

- ・外国語活動、外国語科、英語科の学習内容を活用した「みら探英語」の時間を新たに設定した。
- ・「みら探英語」の時間では、外国語活動、外国語科、英語科の言語活動を活用し、みらい探究科プロジェクトタイムの探究過程と関連させた内容について、英語で情報収集したり発信したりした。
- ・時数配分は外国語活動、外国語科、英語科の時間に上乘せし、カリキュラムを弾力的に運用した。評価の観点も、外国語活動、外国語科、英語科をもとにした。

- ・みら探英語の授業を公開し、実践の検証を行った。

【授業公開】

○9月12日 関西外国語大学教授 直山木綿子先生 指導着助言
 〈1年生グローバルタイム 谷口教頭〉
 〈6年みら探英語 島山教諭〉
 〈9年英語科授業 藤田教諭〉

- ・ALTの活用頻度を高め、より効果的に授業に生かした。2名のALTの授業配置や参加活動を見直し、英語以外の授業にALTが計画的に参加するという取り組みを行った。

[実践内容] 1年生 国語科 (「大きなかぶ」外国の民話, 日常生活 (一緒にいろいろ活動してALTの先生と仲良くなる))
 2年生 みらい探究科 (町で見つけた素敵なものを英語でかっこよく紹介しよう), 生活科 (おもちゃランドにご招待)
 3年生 音楽科 (音楽に合わせて手遊び, 外国の手遊びも教えてもらおう)
 5年生 家庭科 (日本茶でおもてなししよう), みらい探究科 (お米作りに携わってくださった人へ感謝の気持ちを伝えよう)
 7年生 技術・家庭科 家庭分野 (だしを味わい和食文化にふれる)
 8年生 技術・家庭科 家庭分野 (日本の文化, 浴衣の着付けにチャレンジ), みらい探究科 (外国の職業観を知ろう)



2 探究的な学びを深める授業づくりと評価

(1) ICT 活用の工夫

- ・ICT活用検討会を行った。

○2月12日 放送大学准教授 小林 祐紀先生 指導助言

(2) 評価

- ・探究過程の見直しに合わせ、評価規準を再編した。
- ・思考ツールやICTを積極的に活用し、評価方法の多様化を検討した。

3 地域社会との連携

- ・地域が抱える課題について探究し、発信した。
- ・地域の方々との関わりを増やし、新たな出会いを求めた。

4 教科研究

- ・教科における主体的かつ協働的な学びの追求を実践した。
- ・教科部会の開催 7月～9月
- ・指導案検討会 (1年算数) 8月7日 明星学苑明星小学校 笠井健一先生 指導助言
- ・授業の相互参観 (11～12月実施)
- ・授業づくり宣言(12月作成, 1～2月実施)

〈各教科 授業の視点〉

○ねらい達成に向けて、児童生徒が
 主体的かつ協働的に学ぶ場面を作っているか。

Ⅲ 研究の成果と課題

【成果】

1 みらい探究科カリキュラムの見直しと試行

(1) プロジェクトタイム

ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じた探究の系統性を整理し、段階的に学びを深めることを意図したカリキュラムの構築を明確にすることができた。

ステージⅡ(5,6,7年生)探究過程のうち、7年生の探究過程で、地域資源である尾小屋鉱山とそれに関わる人々との出会いを軸にプロジェクトを再編成した。5年「地域の農業」、6年「地域の町づくり」、7年「地域の文化・歴史」をテーマにすることで、ステージⅡにおいて地域や社会の過去・現在・未来を統合的に捉えられるようになった。

ステージⅢ(8,9年)探究過程では、8年「自己の働く意義を見つめる」、9年「より良い社会を見つめる」という個人探究を可能とするテーマを軸にプロジェクトを再編成した。自らと社会との関わりを見つめる学びを通して、地域や社会の一員として未来を創造する姿を描ける内容となった。

(2) コミュニケーションタイム

①情報

情報活用能力について9年間の系統性を重視したカリキュラムを作成することができた。このカリキュラムをもとに、みらい探究科プロジェクトタイムの探究過程に情報活用能力を意図的、計画的に位置付けることができた。これにより、教員は「いつ」「どのような」情報活用能力の育成を意識して指導すればよいかを確認できるようになった。また、みらい探究科プロジェクトタイムの探究過程や授業を見直すことで、児童生徒が主体的に探究活動に取り組み、その中で情報活用能力を発揮できる基盤が整った。

5年と8年のみらい探究科で授業実践を行い検証の機会を設けた結果、渋谷先生から「9年間を見通した情報活用能力の育成が図られており大変良かった。」との指導助言をいただいた。作成した情報活用能力のカリキュラムが、情報活用能力を身に付けるための指針として機能し、みらい探究科の実践においても、情報活用能力を意識した授業設計へ効果的に反映されたことを確認できた。

②英語コミュニケーション

「みら探英語」の時間を新設したことで、児童生徒にとって英語が必要感のある学びとなった。

6年生外国語科での授業実践後、教員の振り返りには「みら探の学習で調べた『松東の魅力』をALTに伝えるというゴール設定がよかった。単元を通して、子どもたちは相手意識をしっかりともち、目的をもって前向きに学習に取り組む姿が見られた。」とあり、直山先生からの指導助言には「単元のゴール設定が適切であり、その目標に向かって子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいた。」とあった。「みら探英語」を新設したことの有効性が実践を通して示された。

2 探究的な学びを深める授業づくりと評価

(1) ICT 活用の工夫

授業での新端末の効果的な活用を目指し実践を積み重ねた。情報活用能力とも親和性が高いため、みらい探究科に関する校内研修会で、小林先生から協働的な学びのためのICT活用の方法や実践事例の紹介、AIの活用についても指導助言をいただいた。教員が、研修での学びと授業実践をつなげ、ICT活用についての知見を広げることができた。

(2) 評価

探究過程の見直しと情報活用能力の位置づけに関わり、全学年の評価規準を再編した。指導と評価の一体化を図ることができ、活動内容も明確となった。また、5年では活動に合わせた様々な思考ツール、8年では個人探究に最適なスライドをワークシートとして用いる授業実践を公開し、その効果を実感することができた。

3 地域社会との連携

みらい探究科の課題設定や情報収集で、地域に生きる人々と関わり思いや願いを直接聞くことで、取り組みの

必要性が高まり、児童生徒が主体的に探究できた。今年度は新たな地域人材との出会いを求めたことで、尾小屋鉱山とそれにまつわる歴史的文化的事象、野生動物との共生を模索するジビエアトリエ、とつながりをもち学習過程に反映することができた。

4 教科研究

相互参観の参観者側の振り返りから、「子どもたちが自分で判断して行動できる・したくなるような声かけが多かった」「学び方を自ら選ぶことができてよかった。」「授業の目的が明確で児童の関心が高ければ、自ら考えることができると感じた。」など、『児童生徒がいかに自律的に学ぶか』という視点が共通して挙げられた。「主体的・協働的な学び」を追求する中で、教員が児童生徒の望ましい姿をイメージできるようになり、授業相互参観の具体的な場面からよさを見取れるようになったと考えられる。また、1月から2月実施予定の授業改善策で教員が立てた目標には、「生徒自身が学びを進める」「自分で自分の学習を」「自由に選択」など主体的な学びに関する記述が約73%の教員に見られた。児童生徒自身が探究的に学びを進める授業を具現化するため、教員が覚悟をもって取り組もうとする姿勢が確認された。

【課題・今後に向けて】

1 みらい探究科探究過程の実施・検証

今年度は、各ステージにおける探究の視点やプロジェクトテーマを整理し、本校独自のみらい探究科探究過程の構想を明確にすることができた。一方で、これらは主に計画・設計段階での成果であり、児童生徒の学びの姿を通してその妥当性を十分に検証するには至っていない。

そこで来年度は、見直した探究過程を全学年で完全実施し、各学年の目標設定や地域連携の在り方が、児童生徒の探究の深まりにどのように寄与しているかを検証していく。あわせて、みらい探究科を中心に据えたカリキュラムマップを作成し、関連教科とのつながりを可視化することで、探究的に学ぶ姿を全教科に共通する学習の方向性として位置付けていきたい。

2 情報活用能力の具体化

今年度は、情報活用能力を探究過程に位置付け、授業実践を通してその有効性を確認することができた。一方で、情報活用能力が包含する内容は多岐にわたり、学年間・教科間での指導内容や到達目標を十分に共有できているとは言い難い。

そこで来年度は、情報技術の基本操作、情報モラルやメディアリテラシー、生成AI等の新たな技術理解といった要素を整理・細分化し、系統的に育成するための指導計画を整備する。これにより、探究活動を支える基盤的な力として、情報活用能力の定着を図っていく。

3 英語科との関連

みらい探究科の探究過程と関連を図る英語科のカリキュラムは、試行的な実践を通して、児童生徒の学習意欲や目的意識を高める可能性が示唆された。一方で、今年度は一部学年での実施に留まり、全体としての検証は十分とは言えない。

来年度は、全学年での実施を通して実践を積み重ね、探究活動における英語活用の在り方や評価方法について検討を進める。英語科教員とみらい探究科を実践する担任教員の協働を深め、みらい探究科と一体となった教科横断的な学びの充実を図っていく。

4 授業研究について

授業研究を通して、教員の間で「主体的・協働的な学び」に対する共通理解が深まり、児童生徒の自律的な学びを志向した授業改善が進められたことは成果である。しかしながら、主体的・協働的な学びが、課題設定や価値創出へとつながる探究的な学びとして十分に具現化されているとは言い難い。

今後は、主体的・協働的な学びを探究の各過程にどのように位置付けるかを明確にし、みらい探究科との関連を意識した授業設計を進める。その際、各教科の特性や見方・考え方を踏まえながら、探究的な学びを教科固有の学習として実装することを、授業研究の柱として取り組んでいく。

みらい探究科(みらたん)

学年		未来とつながる9つのプロジェクト				関連する行事 交流・発信の場	
段階区分		探究 ～未来に向けて・世界に向けて 発信～					
後期課程	学年	【単元・テーマ】	【探究課題】	SDGsとの関連	重視したい情報活用能力		
		9年	「世界」に生きる	グローバルプロジェクト ～より良い社会とは？現実 は？どうすればよい？自分は いつどこにいて何をします か？～	・よりよい社会への展望を持ち具現化するために 必要な方法を考える		17 パートナリシップで 目標を達成しよう
8年	「世界」に生きる	キャリアプロジェクト ～私の働く意義～	・職業の選択と社会への貢献（キャリア） ・働くことの意義と自分の将来（キャリア） ・情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会 変化（情報）	8 働きがいも 経済成長も	【課】 問題を焦点化しゴールを明確にする 問題解決のための情報活用の計画を立てる 【情】 調査や実験・観察等による情報の収集と検証を理解する 調査や実験等と組み合わせる 情報メディアを選択する 【整】 目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用する 情報を統計的に整理する 情報の傾向と変化を捉える 類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら解決策を考察する 批判的に考察しようとする 【ま/表】 相手に伝わるプレゼンを考える 複数の情報を組み合わせて表現する 聞き手とのやり取りをつくる 【モ】 情報には自分と他人の権利があることを踏まえる ネットワーク上の基本的なルールやマナーを守る 情報セキュリティを踏まえる ◇スキル：表現、記録、計算の原理・法則理解、Web・SNSによる発信	インターンシップ (職場体験)	
活用期	7年	「社会」に生きる	石川の未来プロジェクト ～よりよい松東地区とは どんなもの？～	・身近な地域社会をよりよくするための方途 (町づくり)	11 住み続けられる まちづくりを 15 陸の豊かさも 守ろう	【課】 問題を焦点化しゴールを明確にする 問題解決のための情報活用の計画を立てる 【情】 調査や実験・観察等による情報の収集と検証を理解する 調査や実験等と組み合わせる 情報メディアを選択する 【整】 目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用する 情報を統計的に整理する 情報の傾向と変化を捉える 類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら解決策を考察する 批判的に考察しようとする 【ま/表】 相手に伝わるプレゼンを考える 複数の情報を組み合わせて表現する 聞き手とのやり取りをつくる 【モ】 情報には自分と他人の権利があることを踏まえる ネットワーク上の基本的なルールやマナーを守る 情報セキュリティを踏まえる ◇スキル：表現、記録、計算の原理・法則理解、Web・SNSによる発信	金沢自主プラン 瀬戸特別支援学校との交流
	6年	「社会」に生きる	町づくりプロジェクト ～松東地区の 魅力発見！活性化！～	・地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ 人々（伝統文化） ・町づくりや地域活性化のために取り組ん でいる地域や組織（町づくり）	11 住み続けられる まちづくりを	【課】 問題を焦点化しゴールを明確にする 問題解決のための情報活用の計画を立てる 【情】 調査や実験・観察等による情報の収集と検証を理解する 調査や実験等と組み合わせる 情報メディアを選択する 【整】 目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用する 情報を統計的に整理する 情報の傾向と変化を捉える 類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら解決策を考察する 批判的に考察しようとする 【ま/表】 相手に伝わるプレゼンを考える 複数の情報を組み合わせて表現する 聞き手とのやり取りをつくる 【モ】 情報には自分と他人の権利があることを踏まえる ネットワーク上の基本的なルールやマナーを守る 情報セキュリティを踏まえる ◇スキル：表現、記録、計算の原理・法則理解、Web・SNSによる発信	金沢自主プラン 合宿 小松市ALTとの交流
	5年	「社会」に生きる	お米プロジェクト ～お米の魅力を発信しよう～	・米作りの課題とそれに関わる地域の 農業や生産者（食）	15 陸の豊かさも 守ろう 9 産業と雇用創生の 基盤をつくらう	【課】 問題を焦点化しゴールを明確にする 問題解決のための情報活用の計画を立てる 【情】 調査や実験・観察等による情報の収集と検証を理解する 調査や実験等と組み合わせる 情報メディアを選択する 【整】 目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用する 情報を統計的に整理する 情報の傾向と変化を捉える 類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら解決策を考察する 批判的に考察しようとする 【ま/表】 相手に伝わるプレゼンを考える 複数の情報を組み合わせて表現する 聞き手とのやり取りをつくる 【モ】 情報には自分と他人の権利があることを踏まえる ネットワーク上の基本的なルールやマナーを守る 情報セキュリティを踏まえる ◇スキル：表現、記録、計算の原理・法則理解、Web・SNSによる発信	金沢自主プラン 合宿 収穫祭 留学生との交流 (グローバルゼミナール)
前期課程	4年	「地域」に生きる	みんなスマイル プロジェクト ～やさしさの輪を広げよう～	・身の回りの高齢者や障害のある人とその 暮らしを支援する仕組みや人々（福祉） ・情報化の進展とそれに伴う日常生活や 社会変化（情報）	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み続けられる まちづくりを	【課】 収集した情報から課題を見つける 情報の活用を見通しを立てる 【情】 調査や資料から情報収集し、情報同士のつながりを見つける 考えと理由、全体と中心などの情報と情報の関係を理解する 【整】 比較・分類する 観点を決めた表やグラフを用いて整理する 情報を抽象化する 全体的な特徴や要点を捉え新たな考えを見出す 自他の情報を組み合わせる 「考えるための技法」を用いる 【ま/表】 相手に合わせた表現を選択する 相手や目的を意識したプレゼンを考える 【モ】 自分の情報や他人の情報の大切さを尊重する 情報発信のマナーやルールを踏まえる ◇スキル：タイピング、プレゼン	児童発表会 未来へのオンエアー (テレビ小松放映) 老人福祉施設訪問
	3年	「地域」に生きる	自然と友だち プロジェクト ～川と友だち～	・身近な自然環境とそこに起きている 環境問題（環境）	15 陸の豊かさも 守ろう	【課】 体験や活動から疑問をもつ 【情】 身近から情報を収集 共通と相違、順序などの情報と情報の関係を理解する 【整】 情報の概要を捉え分解整理する 簡単な絵や図、表やグラフを用いて整理する 【ま/表】 自分の言葉でまとめる わかりやすい表現 相手を意識し相手に伝わるプレゼン 【モ】 人のつくったもの大切にする 他者に伝えてはいけない情報を守る 情報機器を利用する時の基本的なルールを踏まえ行動する ◇スキル：ICTの使い方、簡単なプレゼン、簡単な写真・動画	おおかわの会 大杉川をよみがえらせる会 他校との交流 こども園との交流
	2年	「地域」に生きる	なかよしプロジェクトⅡ ～町になかよしの輪をひろげ よう～	・町探検とそこに住む人々とのつながり（町 づくり）	11 住み続けられる まちづくりを	【課】 体験や活動から疑問をもつ 【情】 身近から情報を収集 共通と相違、順序などの情報と情報の関係を理解する 【整】 情報の概要を捉え分解整理する 簡単な絵や図、表やグラフを用いて整理する 【ま/表】 自分の言葉でまとめる わかりやすい表現 相手を意識し相手に伝わるプレゼン 【モ】 人のつくったもの大切にする 他者に伝えてはいけない情報を守る 情報機器を利用する時の基本的なルールを踏まえ行動する ◇スキル：ICTの使い方、簡単なプレゼン、簡単な写真・動画	瀬戸特別支援学校との交流
	1年	「地域」に生きる	なかよしプロジェクトⅠ ～あきとなかよしになろう～	・秋探しと身近な自然を生かした 遊びづくり（環境）	15 陸の豊かさも 守ろう	【課】 体験や活動から疑問をもつ 【情】 身近から情報を収集 共通と相違、順序などの情報と情報の関係を理解する 【整】 情報の概要を捉え分解整理する 簡単な絵や図、表やグラフを用いて整理する 【ま/表】 自分の言葉でまとめる わかりやすい表現 相手を意識し相手に伝わるプレゼン 【モ】 人のつくったもの大切にする 他者に伝えてはいけない情報を守る 情報機器を利用する時の基本的なルールを踏まえ行動する ◇スキル：ICTの使い方、簡単なプレゼン、簡単な写真・動画	あきまつり（2年生との交流） 新1年生を迎える会(こども園との交流)

※3～6, 8・9年 70時間
7年 50時間

※1年 15時間（生活科より15時間）
2年 25時間（生活科より25時間）

【課】 課題設定 【情】 情報収集 【整】 整理分析 【ま/表】 まとめ表現
【モ】 情報モラル・セキュリティ

AIの活用

プログラミング

情報モラル・セキュリティ

AIの利用

体 育 祭

文 化 祭

IV. 資料 2 授業実践 ①みらい探究科 前期課程

第5学年1組 みらい探究科 学習指導案

日 時：令和7年9月11日（木）第5限

指導者：土屋 海奈

場 所：5年教室

1 単元名 お米プロジェクト ～お米の魅力を発信しよう～

2 単元の目標

米作り体験や松東地区の米作りに関する調査活動を通して、地域の生産者の想いや願い、消費の実態等を理解し、地域で生産される米の価値を知らせ消費の拡大に貢献する方策について探究するとともに、多様な食生活の中に積極的に地域の米を取り入れようとするなど、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 児童観

地域で稲作が盛んであるにもかかわらず、田植えや稲刈りの経験のある児童は数名ほどしかおらず、直接体験の機会が減少しているという一般的な傾向は、本校においても例外ではない。直接体験は、文字どおり、子どもたちが身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動である。直接体験を通して児童は、実感を伴う理解や適切な技能、多角的・多面的な思考力、主体的に探究に取り組む姿勢を確かに身に付けていく、と考えれば、稲作に関する体験機会の有無は、単元の価値を左右する大きな要因と言える。

この単元においては、直接体験の機会として、稲作農家やJAと連携した米作りを位置付けている。書籍やインターネット等による一般的な情報収集とは異なり、ゲストティーチャーとして招いた地元の稲作農家から直接話を伺うことで、情報や知識の獲得以外にも、苦悩や努力、願いについて、言葉や表情、仕草等から察することが可能となり、主体的な探究を支えることにつながるからである。

また、第5学年においては、他者とのコミュニケーションを通して自らの学習を調整できるといった資質・能力の育成も重視している。なぜなら、自他の発表に対して、アドバイスをし合い、それをもとに修正したりすることに関しては、まだまだ十分とは言えない課題があるからである。そこで、本単元では、対話に加え、プレゼンテーションソフトを用いたまとめや、写真や資料を用いたPRづくりを行い、伝えたいことを視覚的に表現する場面を探究の過程に位置付け、課題の解決を目指す。

4 指導にあたって

(1) 各ステージのゴールを見据えたプロジェクトの位置づけ

本プロジェクトは、ステージⅡの入口にあたる。ステージⅠでは、「地域に生きる」をテーマとして自然環境や福祉について探究し、4年生では「みんなスマイルプロジェクト～松東地区にやさしさの輪を広げよう～」をゴールとして掲げ、自分の考えをもち考えを広めよう児童の姿を目指してきた。それを踏まえたステージⅡでは「社会に生きる」をテーマに設定している。

第5学年では、探究課題として設定した「米作りの課題とそれに関わる地域の農業や生産者」に

基づき、特に、米の消費量の減少に伴う問題状況の解決に向け、自分たちにできることを考え、取り組むことをねらいとする。具体的には、「お米プロジェクト」として、松東地区の米作りに目を向け、米作りの課題とそれに関わる地域の農業や生産者について探究していくことになる。

なお、第6学年では、「町づくりプロジェクト」として松東地区の魅力について探究し、ステージⅡの出口となる第7学年「松東の未来プロジェクト～よりよい松東地区とはどんなもの？～」につなげていく計画である。

(2) 探究課題の設定

わたしたちが生きていくために欠かせない食べ物は、農業従事者によって支えられている。誰もが安心して食べ物を得られるようにするためには、農作物が安定して供給され続ける必要があり、そのために農家は手間や技術で環境と調和のとれた持続可能な農業に取り組んでいる。本単元は探究課題を「米作りの課題とそれに関わる地域の農業と生産者」とし、地元の米生産農家等との関わり合いの中で、生産者の営みや想いに共感し、地域農業に関する課題の解決に向けて消費する立場から主体的に探究しようとする姿を期待するとともに、最終的には自身の生活と食糧生産・消費の関わりを認識し生活を自省する中で、社会課題に気づき、よりよい社会を作る一員として改善策を考えていこうとする姿を目指している。

(3) 探究的な学びを深める授業づくり

ア 情報活用能力を育む単元デザイン

探究的な学びが深まるためには、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】といった学習過程が発展的に繰り返されるとともに、その中で課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、必要な情報を収集・判断・処理・伝達するなどの情報活用能力を育成していくことが欠かせない。そこで、単元に「重視したい情報活用能力」を意図的かつ系統的に位置付け、児童の主体的な探究活動の中でそれらが発揮されるよう期待し、探究1～3を以下のようにデザインした。

■探究1：おいしいお米を作って食べたい

自分たちで米を作りおいしく食べたいという気持ちから、米に関する興味・関心を高める。「おいしいお米」の価値は人によって違うことを見つめ、毎日の手入れの必要性や雑草・害虫への対策と農薬の使用についてなど、話し合ったり調べたりする中で、米作りには様々な困難があることと、農家の苦労を実感していくようにする。また、松東地区ならではの苦労や工夫にも迫っていく。

探究1では、特に「課題の設定」と「情報の収集」の学習過程で重視したい情報活用能力を以下のとおり設定し、それらが発揮されることを期待した。

学習過程	重視したい情報活用能力
課題の設定	①米作りで表出した問題や困り感を焦点化し、ゴールを明確にする。
情報の収集	①米作り体験による実地調査や、米の生育観察、インタビュー調査等による情報の収集と検証を理解する。 ③ウェブサイト、書籍、雑誌等、必要な情報メディアを選択する。

■探究2：自分たちにできることを考えよう

多大な労力をかけて作っている米の消費量の減少を知ることがきっかけに、米の消費量を増

やす方法を検討することを通して自分たちにできることを考える。関心のあるテーマごとにグループを編成し、様々な方法を使って情報収集を進めていく。ここでは、集めた意見や情報を類別して集約するボックスチャート、最も主張すべき点を焦点化するピラミッドチャート、課題を絞り込む二次元表、共通性や独自性を見出すベン図などの活用が考えられる。

探究2では、各学習過程で重視したい情報活用能力を以下のとおり設定し、それらが発揮されることを期待した。なお、本時場面では、松東地区の特別栽培米に関するグラフデータから読み取った情報を、思考ツールを用いて整理・分析するなどして、課題の設定につなげていく。

学習過程	重視したい情報活用能力
課題の設定	①米作りで表出した問題や困り感を焦点化しゴールを明確にする ②問題解決のための情報活用の計画を立てる
情報の収集	②調査や実地等を組み合わせる。
整理・分析	①目的に応じた表やグラフを適切に活用する。 ②関連付ける,理由づける,見通す,などの技法を適切に選択・活用し,農家の苦 労や工夫を理解したり地域の稲作が抱える困難に気づいたりする。 ③自らの活動を批判的に考察する。
まとめ・表現	①相手に伝わるプレゼンを考える。 ②調べたことや経験したことなど複数の情報を組み合わせて表現する。

■探究3：学校・地域に広げよう

全校・地域への発信に向けて、PRを行う。効果的な表現、適切な情報の取扱いを理解した上で、どのような手法でPRするかを思考する活動に向かうようにする。PRのコンセプトの検討を通して、見通しをもって意図的に情報を集めたり、選択したり、組み合わせたりできるようにする。その際、例えば、最も使いたい情報を最上部に置き、その情報につながる細かい情報を最下部に置くなど、ピラミッドチャートを活用した情報を整理・視覚化が考えられる。ここで身に付ける「相手を意識した表現の工夫や方法」は、今後のみらい探究科における表現方法の選択肢を増やすことにもつながる。

探究3では、特に「整理・分析」と「まとめ・表現」の学習過程で重視したい情報活用能力を以下のとおり設定し、それらが発揮されることを期待した。

学習過程	重視したい情報活用能力
整理・分析	③自らの活動を批判的に考察しようとする。
まとめ・表現	①相手に伝わるPRを考える。 ③対象者とのやり取りをつくる。

イ 地域の教育資源の活用

この単元では、以下のような教育支援の活用をめざす。

教育資源		活用の状況
人材	松東地区で農業を営むJAに勤務する農家	【5月上旬】 ・田植え体験,田植え機による苗植えの観察を通して,米作りの大変さを知る。 【5月中旬】 ・畦の除草,稲の生長を阻害する雑草対策を試行錯誤する中で,農家の方の苦労を知る。 【9月中旬】 ・かまによる稲刈り体験。コンバインによる刈り取りや脱穀の見学。
施設	長谷町ライスセンター	【2学期】 ・収穫後の稲が袋詰めされるまでの工程の見学。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①松東地区の米作りの調査活動を通して、米作りの過程を知るとともに、米作りと環境保全のつながりを理解している。</p> <p>②インタビューやアンケートによる家庭及び地域調査を、相手や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③松東地区の米消費量アップを呼びかけることは、松東地区の活性化にもつながり、探究的に学習してきたことの成果であることに気づいている。</p>	<p>①蛍米の現状に関する資料からもった問いから課題を発見するとともに、要因を予測したり、どんな情報収集が必要かを検討したりして、課題の解決方法や手順を見通している。(本時)</p> <p>②多様な情報にある特徴を見つけ、事象を比較・分類し、確かな根拠付けをもとに課題の解決に向けて考えている。</p> <p>③アンケート結果をグループごとに整理・分析し、客観的な視点にたって課題を見出し、分析内容に照らして改善策を考えたり、改善効果を予測したりしている。</p> <p>④相手や目的・意図に応じて工夫してまとめ、多様な方法で表現・発信している。</p>	<p>①地域の米作り農家やJAのゲストティーチャーから米作りの過程や地域ならではの特徴などを学び、探究活動に生かそうとしている。</p> <p>②様々な調査活動を行うにあたって、目的意識を明確にして地域の方やゲストティーチャーの方と関わろうとしたり、友達と協力して調査活動やCM作成に取り組もうとしたりしている。</p> <p>③PRづくりを通して、実生活・実社会の問題解決に継続的に取り組もうとしている。</p>

6 単元の探究過程

第5学年 みらい探究科 探究過程 【資料3-1】

単元名 【テーマ】	お米プロジェクト ～お米の魅力を発信しよう～	15 環境教育 15 食生活教育 9 食生活教育 15 食生活教育
探究課題	米作りの課題とそれに関わる地域の農業や生産者（食）	
単元の目標	「おいしい米を作って食べたい」という思いを切り口とし、稲作の実情に触れる活動を通して、地域の生産者の思いや願いを理解し、米の消費等に関する課題の解決を目指して探究するとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。	

月	小単元	探究過程	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域	
4	探究1 米作りから見える農家のすごさ 25時間	<p>お米に関わることをイメージマップに表し、「おいしいお米を作って食べたい」と考えた。</p> <p>【課題設定①】 自分たちで育てたお米でおいしいご飯をつくりたい 何をどのように育てたらよいのだろう。何が必要だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを使って米作りに関する印象を共有し、思いと興味を引き出す <p>【情報収集①】 米作りについての情報を集めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験 ・JA、稲作農家との交流 ・米作りに必要なもの、手順、経費などをインターネットや本を使って調べる <p>【整理・分析①】 集めた情報を整理し、米作りの苦労や工夫に迫ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことを短冊に表し、目的に合うものを取捨選択し、構成を整理する <p>【まとめ・表現①】 わかったことを報告書にまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワードを使い、写真・表などを用いた報告書にまとめる <p>実際にやってみると、米作りはとても手間がかかり、苦労が多いものだと言った。そんなお米なのに、消費量が減ってきているなんて！</p>	<p>【課】①</p> <p>【情】</p> <p>①③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●きいてきいてきいてみよう(国語) ○育苗見学 ○田植え体験 ●みんなが伝えやすいデザイン(報告文 国語) ●米作りのさかなな地域(社会) ○稲刈り体験 ○ライスセンター見学 ●自然環境を守るために(国語) ○GT 招いての授業 ●割合のグラフ(算数) ●食べて元気！ご飯とみそ汁(家庭) 	
7		探究2 自分たちができることを考えよう 25時間	<p>【課題設定②】 日本のお米作りは、何が問題となっているのだろうか。お米の消費量を増やすにはどんな工夫をしているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KJ法やウェビングマップを使って調べたいことを引き出し、目的に合わせて焦点化し、調査項目を類型化する。 <p>【情報収集②】 グループで知りたい情報をたくさん集めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家さんやJA職員などのGTを招いて話を聞く。 お米の消費についてフォームでアンケート調査をする。 ・お米に対する意識、生産コストの課題、生産量の課題、外国人向けの宣伝等 <p>日本人や外国人など、幅広い消費者へのPRが消費拡大につながりそうだ</p> <p>【課題設定③】 ところで、日本人だけでなく外国の人たちは米のことをどう思っているのだろうか</p> <p>【情報収集③】 外国の主食について、英語を使って取材しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTや身近な外国の人と英語を介して情報収集する <p>【整理分析③】 収集した結果の整理・報告会を通して、消費量を増やす作戦を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボックスチャート、ピラミッドチャートを用いて、米作りの秘密や工夫、米の利点などについて伝えたいことのポイントや対象を明確にする <p>【まとめ・表現③】 みんなにお米の秘密やすごさと、松東地区のお米のすごさを伝えて、今以上にお米を食べてもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドでまとめたものを、学校内模擬発表を見合ってアドバイスし修正する ・収穫祭で農家の方やゲストに発表し、フォームのアンケートを元に再修正する ・地域に発信する <p>全校のみんなや地域の方にお米のよさや工夫を知ってもらえた。もっと多くの人にお米をたくさん食べてもらうにはどうしたらいいかな。</p>	<p>【課】①</p> <p>【情】②</p> <p>【課】②</p> <p>【整】</p> <p>①②③</p> <p>【ま表】</p> <p>①②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●U3 What ~ do you like? (外国語) ○文化祭 ○収穫祭 ●工業生産を支える輸送と貿易 ●情報化した社会の産業の発展(社会)
10			探究3 学校・地域に広げよう 20時間	<p>【課題設定④】 みんなにお米をたくさん食べてほしいからPRを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなPRをしたらよいか、対象、発信場所を考えて試作する。 ・CM、ポスター、プレゼン、ショート動画 等、適切な発信手段を考える <p>【情報収集④】 みんなが食べたくなるようなPRになっているかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者や地域の人、ALTや外国の人の感想を集める <p>【整理・分析④】 試作版をどう再構成するか検討しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた感想を、生成AIを用いて分類し、再構成が必要な部分を検討する。 ・最も伝えたい情報を、ピラミッドチャートを用いて整理し、検討する <p>【まとめ・表現④】 完成版に仕上げて全校や地域にPRを届けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年や外国の人を含めた地域の人に発信し、評価を元に成果を判断する 	<p>【課】③</p> <p>【整】③</p> <p>【ま表】</p> <p>①③</p>

育成を目指す情報活用能力	<p>【課】①米作りで表出した問題や困り感を焦点化しゴールを明確にする ②問題解決のための情報活用の計画を立てる</p> <p>【情】①米作り体験による実地調査や、米の生育観察、インタビュー調査等による情報の収集と検証を理解する ②調査や実地等を組み合わせる ③ウェブサイト、書籍、雑誌等、必要な情報メディアを選択する</p> <p>【整】①目的に応じた表やグラフを適切に活用する ②関連付ける、理由づける、見通す、などの技法を適切に選択・活用し、農家の苦労や工夫を理解したり地域の稲作が抱える困難に気づいたりする ③自らの活動を批判的に考察しようとする</p> <p>【ま/表】①相手に伝えるプレゼンやPRを考える ②調べたことや経験したことなど複数の情報を組み合わせる ③対象者とのやり取りをつくる</p>
--------------	---

7 単元の指導及び評価計画（総時数 70時間 本時27時）

小単元（時間）	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
1 米作りから見える農家のすごさ（25）	・米作りをテーマにウェビングマップし、「おいしいお米作り」に必要なものや手順、苦労や工夫に迫る。			
	・松東地区での米作りの過程を調査したり、米作りの体験を行ったりする。			態① 行動観察
	・調査や体験を通して分かったことや疑問に思ったことの情報や整理・分類する。調べて分かった数値を表やグラフに整理する。	知② インタビュー用紙		
	・米作りの過程を知るとともに、米作りと環境保全のつながりを理解する。	知① ワークシート		
2 自分たちでできることを考えよう（25）	・地域の米作り農家の現状を知る。 ・蛍米に関するデータを根拠に、生産量の推移を読み取ったり生産者の思いを予想したりする。		思① 思考ツールシート・付箋への記述内容、発言	
	・データから問題状況を見出し、課題を設定する。 ・データをもとに予想し、知りたいことややりたいこと（課題）をはっきりさせる。（本時）			
	・課題の解決に向けた調査活動の計画を立てる。 ・蛍米に関する状況を詳しく知るために、生産者への取材計画を作成する。		思① 計画、インタビューシート	
	・G・Tから、近年のお米の生産量や消費量の推移について話を聞く。 ・地域の米作り農家が抱える課題を理解する。	知② 学習用端末		
	・課題解決に向けて情報を集める。 ・情報から見つけた事象を比較・分類し、根拠を明らかにしながら課題の解決に向けて考える。		思② 学習用端末	
	・ここまでの成果をグループごとにまとめ、発表する。（収穫祭）			
	・PMIシートを使ってアンケート結果を整理・分析し、見出した課題の改善策や効果を考え、発信内容を再度修正する。		思③ 発言・PMIシート	
	・これまでの学習の成果やお米の魅力を発信するためにPRする計画を立てる。（PR内での表現方法、絵コンテ、配役、セリフなど）			態② 発言・ワークシート
3 PRして学校・地域に広げよう（20）	・PRのための作成に取り組む。 ・作成したものについて、他グループや先生方からアドバイスをもらう。 ・客観的な視点で課題を見出し、再考・修正する。		思④ 発言・絵コンテ	
	・作成したものを校内、家庭や地域、関係機関に発信する。	知③ 学習用端末		
	・学習をふり返る。 ・松東地区のお米の魅力を呼びかけることは、松東地区の活性化にもつながることに気づく。			態③ 行動観察

8 本時の学習（第27時）

(1) 本時のねらい

蛍米の現状に関する資料から課題を発見し、要因を予測し、どんな情報収集が必要かを検討して課題の解決方法や手順を見通すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 準備 思考ツールシート、付箋、問い返しワードシート、学習用端末

(3) 展開

配時 (分)	主な学習活動 T 主な発問・指示 S 児童の反応	・留意点 □ICT活用 ◆評価【観点,方法】 ○支援
5	<p>1. 前時の活動をふりかえり、本時の課題をつかむ。</p> <p>T: 蛍米の生産量の変化を読み取ったことから、どのようなことを考えましたか。</p> <p>S: 蛍米の生産量が増えていないことから、「蛍米を増やせない」のではないかと予想したよ。</p> <p>S: 僕は、農家さんは「増やしたくない」と思っていると予想したよ。</p> <p>S: なぜそう思うの？</p> <p>T: みんなそれぞれに原因を予想し、その理由を考えましたが、この後どうしますか？</p> <p>S: みんなの予想とその理由を知りたいです。</p> <p>T: では今日は、「蛍米の生産量増えてないのなぜかな？問題」について考えたことを整理して、「蛍米の生産量・わたしたちの大予想」をまとめましょう。</p> <p>そうしたら、その予想を基に「蛍米を増やしてお米の消費量 up 作戦」に向けて何をしたらよいかをはっきりするかもしれませんね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に参照したグラフ、話し合った内容などを掲示して確認する。 ・本時の学習のめあてを確認するとともに、学習の流れを提示する。 ・1学期の学びを想起し、活動方法を自分たちで選べるようにする。
<p>〈予想とその理由を整理して、これから何をしていきたいかをはっきりさせよう〉</p>		
15	<div data-bbox="272 1234 1077 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆グループ活動の流れ☆</p> <p>①グループで、あらかじめ個人で考えていた付箋を出し合う。</p> <p>②付箋をグルーピングし整理する。(KJ法)</p> <p>③グループの中で、問題に対する予想をまとめる。</p> </div> <p>2. 情報を整理する。</p> <p>T: グループごとに意見を出し合って、予想とその理由について整理してください。</p> <p>意見を言いながら付箋を出して、似ているものはまとめます。付箋のまとまりができて、まとめの言葉を付けられそうならつけてください。時間がきたら代表者に発表してもらいます。</p> <p>グループ協議の約束は①出てきた意見や考えを否定しないこと②司会や記録を分担すること③最後に発表する人を決めておくこと、の3つです。</p> <p>S: 「手間がかかる」から増やせないのだと考えた。お米作りは大変だから。</p> <p>S: 「農薬とかに厳しい」と聞いたことがある。</p> <p>S: おじいちゃんが「蛍米は大変だ」って言った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフデータを根拠に問題状況を明らかにしていく。 ・グループ協議は参加度合いにばらつきがでるため、記録や司会などの担当を大まかに決めて話し合うようにする。 ・付箋を出し合う際には、同じものや意味の近いものを集めてグルーピングするよう声をかけ、構造的に整理が行われるように働きかける。 ・「蛍米」を「やむなく増やせない」と、「増やそうとしてない」の二観点で考えることで、農家の視点に立ちつつこれまでの学びを根拠に考えることを促す。 ・じっくり自分の意見を出しつつ友達の見解も参考

<p>1 5</p>	<p>S: 大変だから「増やしたくない」のではないかな。 S: 「高い」から買う人が増えなくて、「増やせない」のかもしれない。 T: 「高くて売れない」が「増やせない」のキーワードに S: 「農家が減ってる」から、作る人がいなくて「増やせない」んだよ。 S: なぜそう思うの？ S: 社会でもグラフを見たよ。農家の数が減っているんだよ。</p> <p>3. グループごとに整理した思考ツールシートを紹介し合い、「蛍米の生産量が増えていない問題」に対する予想を話し合う。 (グループごとに代表者が発表) T: グループ発表を聞いて、「わたしたちの大有想」をまとめましょう。 S: やっぱり「作るのが大変」で増やせないという意見が多い。 S: 「お金がかかる」し増やしたくないも多かったね。 S: でも売ればもうかるのに。 S: 「農家さんがどんどん減っている」から「増やせない」の意見もあったね。</p> <p>5 4. 自分たちの今後の「していきたいこと」をまとめる。 T: 「蛍米生産量増えてないのなぜかな？問題」に対する大有想を考える中で、確実なことと曖昧なことがはっきりしてきましたね。これからどうしますか？どうしていきたいですか？ S: 蛍米のことをもっと調べたい。どれだけ作るの大変なのか。 S: 橋本さんに蛍米の作り方を詳しく聞きたいよ。 S: 何をインタビューするか考えたい。 S: 蛍米を作っている人がどのくらいいるかも知りたいな。 S: もしできそうなら、蛍米の作り方を広めて、農家さんに作ってもらいたい。 T: では、次回からは『探究サイクル』の【情報収集】をしたいのですね。皆で話し合ってみて、自分の中に残っている「したい・知りたい」をタブレットに書き込んでください。</p>	<p>にしながら、蛍米に対する新たな視点をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <input type="checkbox"/> ワードカードを用意し、お互いが問い返すことで考えたことを明らかにする。 ・ キーワードをグループから取り上げ、広められるようにする。 ・ 児童が気づいていない点があれば、アドバイスをしたり、整理し直したりしながら焦点化する。 ・ 円座で発表し、話し合いやすい雰囲気をつくる。 <p>評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 蛍米の現状に関する資料からもった問いから課題を発見するとともに、要因を予測したり、どんな情報収集が必要かを検討したりして、課題の解決方法や手順を見通している。【思、判、表①思考ツールシート・付箋への記述内容、発言】 ○ 〈C→Bへの手立て〉グループ内で交流したり、進んで整理に参加したりできるように声をかけて支援する。 □ 話し合いを通して明確になった児童個々の課題を、教師が生成 AI を使って集約する。
<p>5</p>	<p>5. 本時をふりかえる。 T: 今日のふりかえりを書きましょう。 ①学んだこと ②つけた力 ③反省・次回すること もやもやしている事があれば、③に書いてください。 S: ②グループで話し合う力がついた S: ①蛍米の作り方は難しいのかもしれない S: ③蛍米の作り方を橋本さんに聞いて、詳しくなりたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して書いている「みらたん振り返りシート」に、今日の学びを書き込む。

(4) 指導に生かす学習評価

本時の評価規準「蛍米の現状に関する資料からもった問いから課題を発見するとともに、要因を予測したり、どんな情報収集が必要かを検討したりして、課題の解決方法や手順を見通している。(思、判、表①)」については、グループや全体交流での行動観察(発言)やワークシートの記述内容から評価している。例えば、「資料から課題を発見し、要因を予測している」「どんな情報収集が必要かを検討している」児童は「おおむね満足できる」状況(B)と判断することができる。

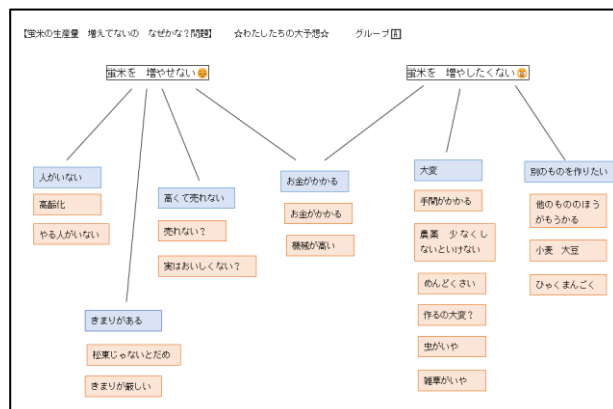
一方、要因の予測や今後の活動への見通しをもつことが難しい「努力を要する」状況(C)と判断で

きる児童については、その手立てとして、例えば、課題に立ち返りデータを改めて確認するとともに、農家の立場としてどのような課題を抱えているかを再考するよう促していく。

また、(B)に加えて、例えば、問題の要因をデータや既習内容を複数組み合わせるなどして、必要な情報やデータを明確にしたり、次の活動への見通しを具体的にもつことができたりする児童は、「十分満足できる」状況(A)と判断することができる。

(5) 本時における情報の取扱い(思考ツールシート)

【課題の設定】に向けて、データから見えてきた問題に対してその要因を予測し、仮説を立てていく。そのために、考えを掘り起こしながら整理していくプロセスを大切にしたい。授業では、右のような思考ツールの中で一人一人が考えていた予測内容を付箋紙を用いてグループで整理しつつ、問い返しを通して課題となる部分を明確にしていく。



(6) 板書計画

【玄米の生産量、増えていないのなぜかな?問題】

<予想とその理由を整理して、これから何をしていきたいかをはっきりさせよう>

☆グループ活動の流れ☆

- ①グループで、個人で考えていたフセンを出し合う。
- ②フセンをグループビングし整理する。
- ③グループの中で、問題に対する予想をまとめる。

㉞グループ (4人)	㉟グループ (4人)	㊱グループ (3人)
㊲グループ (3人)	㊳グループ (3人)	

人手不足

特別な作り方

手間がかかる

高く売れない

?ワードカード

なんで?
どうして?
どのくらい?
どうやって?
どのように?

玄米の生産者(橋本さん)から情報を集めたい
玄米について、自分でももっと調べたい

9 みらい探究科の授業の視点

- ・ 本時の展開は、児童の思考に沿った適切なものであったか。
- ・ 本時における情報活用能力の育成に対する手立ては、有効なものであったか。

視点1 本時の展開は児童の思考に沿った適切なものであったか。（プロジェクトについて）

- プロジェクト内容が児童の意欲と合致しているため、一人ひとりが自分の意見や課題意識をもって授業に臨んでいた。
- 探究のプロセス（本時は【情報収集】）を意識した資料提示が行われており、目的が明確であることから児童が意欲的に取り組んでいた。
- 議論や作業に時間がとられ、最後の振り返りが不十分であった。ねらい達成が判断できず、次時へのつながりがあいまいになりやすい。探究は連続した思考を大切にしたい。

視点2 本時における情報活用能力の育成に対する手立ては、有効なものであったか。（情報活用能力について）

- 思考を整理するための「KJ法」や「ベン図」が子どもたちの思考を可視化する助けとなっていた。子どもたちが主体的に分析するための、適切な手立てであった。
- 意見を共有するためのICT活用（Padletパドレット）が有効だった。
- 「根拠をもとにした議論」の設定が難しい。多様なデータや根拠となるものがあれば意見も多様化するが、今回はデータが少なく、読み取り結果にも差異がないため、似た意見が出るばかりとなっていた。
- 「経験＝情報」という認識が児童に身につけていないため、出てくる根拠が乏しくなってしまった。体験や経験を言語化し、情報として扱う技術を養いたい。

指導・助言より成果

○児童主体の授業展開となっている

教員が「どうする？」「どうしたい？」と児童に問いかけることで、子供たちの主体性を引き出す授業構成となっていた。

○探究的な学びの基礎

実際のコメ作り体験や、コメの生産量が減少しているという事実に児童自身が気づき、それを「自分事」の課題として捉えるプロセスが、探究的な学びの基礎となっている。

○目標の明確化

教員が授業のゴールや評価の場面を事前に明確に計画し、それを児童に伝えることで、目的意識がはっきりしていた。

課題

●タイムマネジメント

授業後の振り返りの時間が十分に確保できていない。振り返りが充実することで、本時の評価、次時へのつながりの意識化につながる。時間内に書ききるマネジメントを。

◎情報活用能力の育成について

9年間を見通した情報活用能力の育成が図られており大変良かった。今後は各教科の資質能力と関連付けた教科横断的な探究活動、例えば国語科で分析・整理・発表などの力をつけてみれば生かす、などの学習活動の工夫が求められる。

②みらい探究科 後期課程

第8学年1組 みらい探究科 学習指導案

日 時：令和7年11月11日（火）第5限

指導者：武田 知亜紀

場 所：コミュニケーションルーム

1 単元名 キャリアプロジェクト ～私の働く意義～

2 単元の目標

職場体験を通して生じた関心や疑問に向き合う活動を通して、働く人々の仕事に対する姿勢や考えを知るとともに、現代社会が抱える職業・勤労に関する問題状況を探究し、働く意義や自己の生き方と職業との関連性を考えられるようにする。

3 生徒観

職業や自己の将来に関する課題は、義務教育の最終段階にある生徒にとって切実かつ現実的な課題である。本学級の生徒も、職業や自己の将来に関する課題に対して関心は高い。しかし、自己の将来や進路に対する展望が必ずしも明確になっていない、具体的に想像できないことも多く、漠然とした不安を抱えている生徒もいる。また、一般的な「働くことの意義」については様々な視点から考えることができているが、我が事となっていない面もみられる。学習を通して、職業や自己の将来に関する課題に対して主体的に取り組み、自己の将来や進路について深く考える機会になってほしいと考えている。

また、探究学習のサイクルが大切だと考える。探究学習のサイクルとは生徒自身が課題を設定し、課題解決のための情報収集、集めた情報の整理分析、まとめや発表を通して新たな課題発見につなげていくということである。本学級の生徒は、自分の考えや集めた情報を、タブレットなどを使って整理しわかりやすくまとめることを得意としている生徒が多いので、これに加えて、親和的な雰囲気の中でまとめた内容を簡潔に発表したり、相手の意見や考えに対して共感的に話を聞いたりすることで深い学びにつながるよう、互いのよさを感じながら自立的な議論ができるように支援していきたい。

4 指導にあたって

(1) 各ステージのゴールを見据えたプロジェクトの位置づけ

本プロジェクトは、ステージⅢの前半にあたる。ステージⅡでは「社会に生きる」をテーマとして地域の魅力や課題について探究した。特に7年生では「石川の未来プロジェクト～よりよい石川県とはどんなもの？自分はいつ、何をやる？～」をゴールとして掲げ、身近な地域社会の課題を我が事として捉えて発信していく生徒の姿を目指してきた。それを踏まえたステージⅢでは「未来に生きる・世界に生きる」をテーマに設定している。第8学年では、探究課題として設定した「職業の選択と社会への貢献、働くことの意義と自分の将来について考える」に基づき、「私たちが直面する社会問題」をテーマに設定し、多様な視点から働くことそのものや、働く上でぶつかりと想定される困難や社会問題に目を向け、課題解決の方法や考え方を探究していくことになる。

なお、第9学年では、「グローバルプロジェクト」として、個人探究することとしている。これまでの、身近な「地域」に触れるプロジェクト、地域社会の課題に取り組むプロジェクト、個の生き方を見つめ社会課題とのつながりを意識するプロジェクトの経験を土台に、未来のよりよい社会実現のために自分ができること、自分たちが取り組んでいかなければならないことを見つめていく。市や県の課題にも視野を広げ、海外の人に向けたアンケートによってグローバルな視点をもちつつ、よりよい社会の実現に向けて探究していく。8年生のテーマである「職業」の枠を超えて探究することとなり、本單元における学びも踏まえ、卒業後の生徒の生き方について、さらに深く、多面的・多角的に、我がこととして考えていくことを目指す。

(2) 探究課題の設定

先述した通り、職業や自己の将来に関する課題とは、義務教育の最終段階にある生徒にとって切実かつ現実的な課題である。本単元は、様々な職業や働き方について知り、生徒自身が将来どのような大人になりたいか、社会の中でどのような役割を果たしたいかを具体的に考えるきっかけとなる。そして、様々な職業の具体的な仕事内容や、それらが人々の役に立っていることを学ぶことで、多様な価値観を理解し、職業に従事する人々への敬意や感謝の念をもつことや、働くことがお金を得る手段だけでなく、自己成長や社会貢献、生きがいに繋がるという多面的な価値を理解することも期待できる。

また、探究学習のサイクルにおける課題解決に向けて、具体的な活動体験や調査活動、仲間との真剣な対話を通して学び合うことは、生徒が自己の生き方を具体的、現実的なものとして考えることにつながる。このことは、自己の将来を力強く着実に切り拓いていこうとする資質・能力の育成において、極めて重要である。さらにその中で情報を収集・分析し、仮説を立てて検証するといったプロセスを通じて、思考力、判断力、表現力等が身につくことを期待している。

(3) 探究的な学びを深める授業づくり

ア 情報活用能力を育む単元デザイン

探究的な学習とするためには、学習の過程が【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】となることが重要であり、この過程が発展的に繰り返されることが求められる。

探究的な学習は、情報活用能力を育成すると同時に、その能力を発揮させる場にもなる。系統のかつ計画的に情報活用能力の育成を図り、探究的な学習と児童生徒の主体的な活動を支えるものとなることを期待する。そこで、探究1～3を以下のようにデザインした。

■探究1：体験を通して学ぶ「働く意義」～何のために私たちは働く？～

職場体験をきっかけに、働くことに関する興味・関心を高める。実際に働き、様々な苦労や成功体験を味わう中で、働くには様々な力が必要であること、働いている人たちは苦労や工夫をしながら職能発達していることを実感していくようにする。

探究1では、特に「課題の設定」と「情報の収集」の学習過程で重視したい情報活用能力を以下の通り設定し、それらが発揮されることを期待した。

学習過程	重視したい情報活用能力
課題の設定	①働く意義について考えるために、調べ学習や職場体験学習など複数の計画を立案する。
情報の収集	①職場体験学習やインタビューなど、調査を設計する。
整理・分析	①自らの調べ学習や職場体験学習を踏まえ、批判的に考察し、判断する。

■探究2：私たちが直面する社会問題～社会で自分らしく働くためには？～

実際に働く人々の声をきくことをきっかけに働くことを我が事として見つめつつ、就労に関する社会問題に向き合い、自分らしく働くために必要なことは何かを考える。個人課題を設定し、情報収集したことをグループで検討し、課題に対する理解を深めていく。

探究2では、特に「課題の設定」と「情報の収集」と「整理・分析」の学習過程で重視したい情報活用能力を以下の通り設定し、それらが発揮されることを期待した。

学習過程	重視したい情報活用能力
課題の設定	①働く意義について考えるために、調べ学習や職場体験学習など複数の計画を立案する。
情報の収集	②インターネットや生成 AI、書籍など情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索する。
整理・分析	①自らの調べ学習や職場体験学習を踏まえ、批判的に考察し、判断する。②グループで課題に対する考えを発表する。
まとめ・表現	①探究の目的や意図に応じて情報を統合し、表現する。

■探究3：卒業後の進路～卒業後の進路を考えよう～

卒業後の進路を考え、レポートにまとめていく。探究1・2で得た情報をもとに、自身の職業観を見つめ直し、論理的に考えることを通して卒業後の進路について考えをまとめていく。

探究3では、特に「整理・分析」と「まとめ・表現」の学習過程で重視したい情報活用能力を以下の通り設定し、それらが発揮されることを期待した。

学習過程	重視したい情報活用能力
課題の設定	②将来自分らしく働く際に直面する社会問題等や卒業後の進学先について調べるために、情報活用の計画を立て、最適化する。
整理・分析	①自らの調べ学習や職場体験学習を踏まえ、批判的に考察し、判断する。
まとめ・表現	①探究の目的や意図に応じて情報を統合し、表現する。

イ 地域の教育資源の活用

教育資源		活用の状況
人材	職場体験先の事業所	【5月】 ・職場体験やインタビューを通して、働く意義を学ぶ。
	家族や親族などの身近な大人	【2学期】 ・働く意義や働くことに対する思いなどをインタビューする。
施設	ジョブカフェ石川	【2学期】 ・職業講和を聞く。ビデオ学習を行う。
	近隣の高等学校	【3学期】 ・高校見学を通して、卒業後の進路について学ぶ。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①社会に出て働くために職業へとつながる進路選択の情報収集が必要不可欠であることを理解している。	①職場体験やそこで働く人との関わりを通して感じた関心をもとに自分自身で課題を設定し、解決の見通しを持っている。	①探究活動を通して、自ら設定した課題が、職業と自己の将来と深く関係していることに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。
②調査・体験活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。	②課題の解決に必要なデータ等のように収集するかを選択したり、調査内容や方法を工夫したりしている。	②働くことの意義と自己の将来の生き方との関連性の理解に向けて、自分の考えに他者の意見を取り入れて、探究活動に取り組んでいる。
③職場体験などを通して探究的に学習してきたことは、自らの働く意義や将来への見通しにつながっていることを理解している。	③個人でデータを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察し、さらに対話を通して考察を深め、課題の解決に向けて取り組んでいる。	③探究活動を通して、自己の将来の生き方について今の自分にできることや必要なことを見つけようとしている。
	④課題に対する自分の最適解(納得解)を、相手意識をもち分かりやすく表現している。	

6 単元の探究過程



第8学年 みらい探究科 探究過程【資料3-1】		キャリアプロジェクト ～私の働く意義～	
単元名 【テーマ】	キャリアプロジェクト ～私の働く意義～		
探究課題	職業の選択と社会への貢献 働くことの意義と自分の将来について考える		
単元の目標	働く人々の仕事に対する姿勢や考えから働く意義を知り、職場体験を通して学んだこと及び生じた関心や疑問について探究し、職業や自分について理解を深め、自己の将来の生き方を考える。		
月	小単元	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
4	探究1 働くって何だろう 20時間	【課】① 【情】① 【整】①	●働くことの目的と意義(学活) ●職場体験について(学活) ●自分の適性と進路(学活) ○職場体験先の方々 ●Project 1 My Dream (英語)
5			
6			
7	【課題設定①】～職場体験を通して、働く意義について考えよう～ ・働くことの意義について、自分なりの考えを持つ。 【情報収集①】 ・職場体験先の仕事内容などをインターネットやパンフレットを用いて調べる。 ・働くことの意義について、体験先の人へのインタビューや体験を通して考えを広げたり、深めたりする。 【整理・分析①】 ・インタビューや体験内容を踏まえ、働くことの意義について自分の考えを整理する。 【まとめ・表現①】 ・職場体験の活動内容と整理分析を経て導き出した働くことの意義について、具体的に記した壁新聞を作成し、クラスで発表した後、校内に掲示をする。		
9	働く意義について考えることができた。将来自分らしく働けるだろうか？	【課】②	○地域の事業所
10	探究2 私たちが直面する社会問題 32時間	【課】② 【情】② 【整】①② 【ま/表】①	●日本の人口(社会) ○文化祭 ●高校調べ(学活) ○高校見学 ●情報社会を生きる(国語)
11			
12			
1	【課題設定②】～社会で自分らしく働くためには？～ ・探究1を通して考えた自分なりの「働く意義」を振り返った上で、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等について予想してみる。書籍やインターネット等から情報を集める。 ・家族や身近にいる働く大人へのインタビューを通して、働いている人が感じている困り感などを知る。 ・行政の担当者等の講師から、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等の講話を聞き、理解を深める。 ・ALTから外国と日本の職業観や勤労観等の違いについて講話を聞き、理解を広げる。 ・将来、自分なりの「働く意義」を大切にしながら働く際に直面する現代社会の問題やその背景に関して、生徒1人1人が課題を設定する。 【情報収集②】 ・課題解決に向けて書籍やインターネット等から情報を集める。また、講師の話や様々な職業人へのインタビューを通して情報を集める。 【整理・分析②】 ・集めた情報を共通点や相違点、メリット・デメリットなどの視点から、整理・分析し、スライドにまとめる。 ・スライドにまとめたものを発表し、課題に関して意見を出し合う。出し合った意見を元に、課題に対する理解を深めていく。 【まとめ・表現②】 ・スライドにまとめたものをクラスで発表する。		
2	今までの学びを踏まえて、卒業後はどんな進路選択をしよう？	【課】②	○高校見学
3	探究3 私の進路 18時間	【課】② 【整】①② 【ま/表】①	●情報社会を生きる(国語)
育成を目指す情報活用能力	【課】①働く意義について考えるために、調べ学習や職場体験学習など複数の計画を立案する。②将来自分らしく働く際に直面する社会問題等や卒業後の進学先について調べるために、情報活用の計画を立て、最適化する。 【情】①職場体験学習やインタビューなど、調査を設計する。②インターネットや生成AI、書籍など情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索する。 【整】①自らの調べ学習や職場体験学習を踏まえ、批判的に考察し、判断する。②グループで課題に対する考えを発表する。 【ま/表】①探究の目的や意図に応じて情報を統合し、表現する。		

7 単元の指導及び評価計画（総時数 70時間 本時40時）

小単元（時間）	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
1 体験を通して学ぶ「働く意義」～何のために私たちは働く？～（20）	・働くことの意義について、自分なりの考えを持つ。			主① 取り組みの姿勢
	・職場体験先の仕事内容などをインターネットやパンフレットを用いて調べる。 ・働くことの意義について、体験先の人へのインタビューや体験を通して考えを広げたり、深めたりする。	知① 取り組みの姿勢		
	・インタビューや体験内容を踏まえ、働くことの意義について自分の考えを整理する。	知② ワークシート		
	・職場体験の活動内容と整理分析を経て導き出した働くことの意義について、具体的に記した壁新聞を作成し、クラスで発表した後、校内に掲示をする。		思③ 壁新聞	
2 私たちが直面する社会問題～社会で自分らしく働くためには？～（32）	・探究1を通して考えた自分なりの「働く意義」を振り返った上で、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等について予想してみる。書籍やインターネットから情報を集める。	知① ワークシート		
	・家族や身近にいる働く大人へのインタビューを通して、働いている人が感じている困り感などを知る。 ・行政の担当者等の講師から、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等の講話を聞き、理解を深める。 ・ALTから外国と日本の職業観や勤労観等の違いについて講話を聞き、理解を広げる。	知② ワークシート		
	・将来、自分なりの「働く意義」を大切にしながら働く際に直面する現代社会の問題やその背景に関して、生徒1人1人が課題を設定する。			主③ 取り組みの姿勢
	・課題解決のための手段や方法を考える。	知② スライド		
	・課題解決に向けて書籍やインターネットから情報を集める。また、講師の話や様々な職業人へのインタビューを通して情報を集める。[A]		思② スライド	主② 取り組みの姿勢
	・集めた情報をメリット・デメリットで分類、データをグラフ化するなどして整理・分析し、スライドにまとめる。[B]		思③ スライド	
・スライドにまとめたものをグループで発表し、課題に関して意見を出し合う。出し合った意見を元に、課題に対する理解を深めていく。 [C 中間発表] ※A～Cを繰り返し行う		思③ 対話の様子、スライド、ワークシート		
・スライドにまとめたものをクラスで発表する。		思④ 発表の様子		
3 卒業後の進路～卒業後の進路を考えよう～（18）	・自分の職業観や勤労観に合った卒業後の進路について考える。			主③ 取り組みの姿勢
	・卒業後の自分の進路についてインターネットや書籍を用いて情報を集める。		思② ワークシート	
	・現在考えている進路が自分の職業観に合っているか分析し整理する。	知③ ワークシート		
	・卒業後の進路についてレポートにまとめ、クラスで発表する。		思③ レポート	

8 本時の学習（第40時）

(1) 本時のねらい

- 個人でデータを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察し、さらに対話を通して考察を深め、課題の解決に向けて取り組むことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 準備 学習用端末,

(3) 展開

配時 (分)	主な学習活動 T 主な発問・指示 S 生徒の反応	・留意点 ◆評価方法
10	<p>1. 前時の活動のふりかえりと本時の流れを確認する。</p> <p>T：今日は探究学習の中間発表（整理・分析）を行います。</p> <p>T：中間発表の目的は何でしたか？</p> <p>S：中間発表を通して、今日まで調べたり学んだりしたことをよりよく伝えます。</p> <p>S：また、発表後の話し合いを通して、課題のよりよい解決に向けて、今後必要な取り組み目標をはっきりさせます。</p> <p>T：そうですね。そのために、対話のルールを大切にしてくださいね。また、データの整理・分析の視点を意識して取り組んでください。</p> <p>T：今日の中間発表の目的を達成するためには、発表者だけでなく発表を聞く側も視点を大切にし、対話をしてください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">中間発表を通して、今後必要な取り組み目標を見付けよう</p> </div> <p>T：前回の授業で、自分の探究課題と今日の目標はパドレットにすでに入力してもらっています。それぞれ確認しておいてください。</p> <p>T：それでは自分の目標や視点を大切に、グループに分かれて発表していきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習のめあてを確認するとともに、対話や議論のルール、学習の流れを提示する。 発表する側も発表を聞く側も視点を大切にすることを確認する。
30	<p>2. 情報を整理する。分析する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆グループ活動（4～5人）の流れ☆</p> <p>①発表者、司会者の順番を決める。</p> <p>②発表を聞きながら、付箋に参考になる点や疑問点、アドバイスについて視点を踏まえて書き込む。</p> <p>③発表後、司会の進行のもと、付箋を渡しながらかし合う。</p> <p>・1人あたり5分でローテーションする。</p> </div> <p>探究課題「働くなら都会と田舎のどちら？」 (反応例)</p> <p>[参考になる点] 石川県と東京都の給料の違いだけでなく、生活費の違いのデータも比較していたので参考にしたい。</p> <p>[疑問点] 石川県と東京都では就職のしやすさが違うのか、疑問に思った。</p> <p>[アドバイス] 石川県と東京都の給料の変化を10年くらい確認すると今後の変化も予想できるのでは？</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価規準</p> <p>◆ 個人でデータを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察し、さらに対話を通して考察を深め、課題の解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>【思、判、表③対話の様子、スライド、ワークシート】</p> </div> <p>○ 〈C→B への手立て〉 グループ内で対話や議論が進むように声掛けを行い、支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視点をもとに、良かった点や疑問点、アドバイスを述べるように声をかける。

	<p>探究課題「AI化が進む社会で求められる力とは？」 (反応例)</p> <p>【参考になる点】AI化による仕事の変化のインタビュー記事を複数用意し、そのすべての内容を踏まえて考察していた。</p> <p>【疑問点】将来のために、今の自分たちにできることは何か？</p> <p>【アドバイス】AI化が進むメリットだけでなく、デメリットも調べると、考察が深まると思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対話を通して積極的に再思考している個人や視点を踏まえて対話している様子などを全体で共有し、価値づける。
10	<p>3. 各グループで話し合った結果、明らかになった今後必要な取り組み目標（調べる内容）をパドレットに個人で入力する。</p> <p>T: 今後の取り組み目標とそうした理由を何人かに話してもらいます。</p> <p>S: 私の課題は「働くなら都会と田舎のどちら？」です。今回は生活費の違いも踏まえて考察し、発表しました。次回までに、実際に都会で働いた経験のある方のインタビューを行い、意見を取り入れたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに今日の学びを書き込む。

(4) 指導に生かす学習評価

本時の評価規準「個人でデータを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察し、さらに対話を通して考察を深め、課題の解決に向けて取り組んでいる。(思, 判, 表③)」については、対話の様子と生徒が発表で使用するスライド、ワークシートから評価する。ここで注意したいのは、情報の整理・分析の視点を大切にしているかどうかである。視点とは、①共通点と相違点を比較すること、②時間変化、③メリットとデメリット、④データの割合やバランス、⑤結果を引き起こした原因は何か、⑥データ同士のつながりや関係性、⑦データを集める前後で自分の考えがどのように変化したか、⑧集めたデータは自分の探究課題の解決に適合しているか、などである。

まず、発表する側の生徒を評価する際、「データを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察することができている」ならば「おおむね満足できる」状況(B)と判断することができる。さらに「周りの生徒からのアドバイスを踏まえ、より深い分析や考察ができている」生徒や「データを分類したり整理したりする中で複数の視点から多角的に考察し、我がこととすることができている」生徒は「十分満足できる」状況(A)と判断することができる。一方、「情報が整理・分析できていない、できていてもスライドにまとめることができていない」生徒は「努力を要する」状況(C)と判断し、課題解決のために必要なデータの確認や集めたデータの整理の支援を行う。

また、発表を聞く側の生徒を評価する際、「発表者に対して、視点を踏まえて参考になる点やアドバイスを記入している」ならば「おおむね満足できる」状況(B)と判断することができる。さらに「発表者に対して、視点を踏まえつつ、自分の考えを記入できている」ならば、十分満足できる」状況(A)と判断することができる。一方、「発表者に対して、参考になる点やアドバイスを述べることができていない」「感想のみを述べている」ならば、「努力を要する」状況(C)と判断し、視点の確認などの支援を行う。

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center; margin: 0;">対話のポイント</h3> <ol style="list-style-type: none"> ① 相手の話を受けとめる 「うんうん」 「なるほど」 「～なんだね」（オウム返し） ② 問い返して考えを深める 「なんでそう思ったの？」 「例えば、どういうこと？」 「もう少し具体的に言おうと？」 「その考えに変わったきっかけは？」 ③ 自分の意見も伝える 「こんな考え方もあるかも」 ④ 気づきや広がり意識する 「話を聞いて、～だと気づいた」 「～風に自分の考えが変わった」 ⑤ 対話を進める工夫【司会用】 「今の意見を聞いて、思ったことがある人いますか？」 「Aさんの意見と、Bさんの意見の違いはどこだろう？」 「今の意見の中で、共通しているところはあるかな？」 「少しまとめてみると、～という考えが多いね」 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center; margin: 0;">データの整理・分析の視点</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 共通点（同じ点）と相違点（違う点） 例）石川県と東京都の共通点と相違点は ● 時間の流れでどう変わっているか？ 例）10年前、20年前と比べるとどう変化している ● メリットとデメリット 例）石川県で生活するときのメリット・デメリットは 東京都で生活するときのメリット・デメリットは ● 割合やバランス 例）なぜ男女の割合がちがうのか ● 原因と結果 例）なぜこのような変化が生じたのか ● データ同士のつながり・関係性 例）2つのデータから……と考えられる ● 集めたデータと自分との関連 例）情報を集める前と後で自分の考えは変わった？ ● 問いへの適合性 例）集めた情報は、課題解決につながっている？ </div>	<p>☆グループ活動(4～5人)の流れ☆</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発表者、司会者の順番を決める。 ②発表を聞きながら、付箋に参考になった点や疑問点、アドバイスを視点を踏まえ書き込む。 ③発表後、司会の進行のもと、付箋を渡しながらかし合う。 ・1人あたり5分でローテーションする。 <p style="margin-top: 20px;">良い例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
--	--	---

(6) ワークシート

8年みら探 第 四 回中間発表	())グループ
もらったフセンを貼る 書き込みOK つなげる・重ねる・まとめるなどの整理、分類をする		
参考になった点		
疑問点		
アドバイス		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center; margin: 0;">データの整理・分析の視点</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 共通点（同じ点）と相違点（違う点） 例）石川県と東京都の共通点と相違点は ● 時間の流れでどう変わっているか？ 例）10年前、20年前と比べるとどう変化している ● メリットとデメリット 例）石川県で生活するときのメリット・デメリットは 東京都で生活するときのメリット・デメリットは </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center; margin: 0;">対話のポイント</h3> <ol style="list-style-type: none"> ① 相手の話を受けとめる 「うんうん」 「なるほど」 「～なんだね」（オウム返し） ② 問い返して考えを深める 「なんでそう思ったの？」 「例えば、どういうこと？」 「もう少し具体的に言おうと？」 「その考えに変わったきっかけは？」 ③ 自分の意見も伝える 「こんな考え方もあるかも」 ④ 気づきや広がり意識する 「話を聞いて、～だと気づいた」 「～風に自分の考えが変わった」 ⑤ 対話を進める工夫【司会用】 「今の意見を聞いて、思ったことがある人いますか？」 「Aさんの意見と、Bさんの意見の違いはどこだろう？」 「今の意見の中で、共通しているところはあるかな？」 「少しまとめてみると、～という考えが多いね」 </div>	

授業後の振り返り（授業者、整理会より）

視点1 本時の展開は児童の思考に沿った適切なものであったか。（プロジェクトについて）

- グループの発表場面で、生徒同士のコメントに「具体的な数値があるとよい」「参考文献を示す必要がある」など内容をより良くしようとする前向きなものが見られた。
- 自分の資料を見ながら説明したり、データを基に考えをまとめたりする姿から、探究を通して考えが深まっている様子がうかがえた。
- 30分間のグループワークを円滑に進めようとする姿が全員に見られ、疑問点が出ない場合にも「何か質問やアドバイスを」と声をかけ合うなど、対話を大切にし、主体的に取り組む姿勢がみられた。
- グループによって、発話の量や対話を通じた思考の深まりに差が見られた。発表を相互交流の場にするための視点を、十分共有する必要がある。
- 他者の発表を聞いて、自分の学びを振り返る場面を、今後さらに意識して設定していきたい。

視点2 本時における情報活用能力の育成に対する手立ては、有効なものであったか。（情報活用能力について）

- 付箋を用いた活動により、自分の考えや疑問を整理し、互いに伝え合うことができた。
- 本時までには、アドバイスの視点の紹介、話し合いの様子への参観、協議を円滑に進めるための方策などの指導を働きかけたため、生徒から、数値やグラフなどのデータ、データを整理・分析する上での視点、参考文献といった根拠に基づき意見を述べようとする姿が見られた。
- 意見を共有するためのICT活用（Padletパドレット）が有効だった。
- 付箋の内容は「事実の確認」が中心となる場面も見受けられた。課題の改善につながる、生徒同士の問いを引き出す必要がある。
- 情報をどのように整理し、考えをまとめたのかを共有する機会を設けることで、情報活用の学びをより深めていきたい。

指導・助言より

成果

○探究的な学びの実現

課題に対して必要な情報を集めるだけでなく、数値やグラフ、参考文献の妥当性に目を向けながら考えを深める姿が見られ、調べ学習にとどまらない探究的な学びが実現していた。

○協動的な学びの実現

発表に対して質問や助言を行う活動を通して、自分の考えを見直し、改善しようとする姿が見られ、探究の過程における思考の変容が促されていた。グループでの対話を通して、課題に主体的に向き合う学習の姿が見られた。

○情報活用能力の育成

情報を整理・分析し、自分の考えとして表現する活動を通して、情報を活用して考える力が育成されていた。

課題

●はたらかせたい見方・考え方を明確

協動的な学びの中で生徒にはたらかせたい見方・考え方を明確にし、それらを意識的に用いた対話や思考を促していく。

●生徒主体の授業づくり

課題が生徒にとって「自分ごと」として捉えられるよう、生徒が主体となって学びを進める授業づくりを行っていく。

◎情報活用能力の育成について

目的に合った情報の選び方や、数値・グラフ・参考文献を根拠として活用する意義を丁寧に指導し、問いや振り返りを通して、情報を考えるために使う力を高めることが求められる。

③外国語科 みら探英語

第6学年1組 外国語科学習指導案

日 時：令和7年9月12日（金）第5限

指導者：畠山 祐輔

Hannah Griffith (ALT)

場 所：コミュニケーションルーム

1 単元名 Unit2 Welcome to Japan - Introducing SHOTO's 魅力

日本の文化と松東の魅力を紹介しよう！

(MITSUMURA TOSHO)

関連する領域別目標
「聞くこと」
イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
「話すこと〔発表〕」
ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

2 単元の目標

日本の行事や松東地区の良さが伝わるように、行事やそのときにできることを聞き取ったり、伝えたりすることができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 in (季節), we have/you can see/eat/visit/enjoy などの表現や関連語句を理解している。 〈技能〉日本の行事やそのときにできることについて聞き取る技能を身に付けている	日本の行事や松東地区の良さがわかるように、行事やそのときにできることなど具体的な情報を聞き取っている。	日本の行事や松東地区の良さがわかるように、行事やそのときにできることなど具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと (発表)	〈知識〉 in (季節), we have/you can see/eat/visit/enjoy などの表現や関連語句を理解している。 〈技能〉日本の行事やそのときにできることについて話す技能を身に付けている。	日本の行事や松東地区の良さが伝わるように、行事やそのときにできることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。	日本の行事や松東地区の良さが伝わるように、行事やそのときにできることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

4 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、日本の行事の良さや松東地区の魅力がわかるように、行事やできることを伝え合う活動を通して、自分の考えや思いを英語で伝え合うことをねらいとしている。実際に、ALT の先生に日本の行事を紹介することや、小松に住む外国の人に松東地区の魅力を紹介することといった具体的なゴールを設定することで、発表に向けて自分の班のメニューの良さが伝わるように表現を工夫したり、質問したりする必然性が生まれると考えられる。また、発表の練習を通して、それらの表現について理解することができる。

(2) 児童観

児童はこれまで、自己紹介や自分の1日について伝える活動を通して、全体に向けて発表する場面を何度か経験してきた。スピーチに抵抗のない児童は、ジェスチャーを交えたり、聞き手を意識したりして話すことができるようになってきている。しかし、そのような児童はまだ多くはなく、英語に対して苦手意識を持つ児童も一定数いる。

(3) 指導観

本単元では、Unit2「Welcome to Japan」の学習を通して、日本の文化や地域の魅力を英語で伝える力を育てることを目指している。身近な文化や学校・地域のよさを見つめ直し、それをどのように外国の人に伝えるかを考える中で、自分の気持ちや考えを英語で表現する力を養っていく。実際に外国の人に伝えるという機会があることで、児童は英語を使う意味や必要性を強く感じ、自分の言葉で伝えたいという気持ちが高まる。こうした実感を伴った学びを通して、英語で伝える力を育てていくことをねらいとしている。

中でも本授業では、「ALT に日本の文化を伝える」という活動を基盤とし、みらい探究科で調べた松東の魅力を紹介する活動へと発展させていく。児童が英語を使う必然性を感じながら、具体的なゴールに向かって主体的かつ意欲的に練習に取り組み、自分なりに表現を工夫する姿を引き出す。最終的には、外国の人に松東の魅力を英語で堂々と伝えようとする姿を目指す。

5 単元の指導・評価計画（総時数9時間）○指導に生かす評価 ●記録に残す評価

次	目 標	主な学習活動	知技	思判表	態度
一 (1)	本単元のゴールを知り、日本の行事やそのときにできることについてのおおよその内容を理解することができる。	Let's Sing Small Talk 【Let's talk about the events.】 Story 【ニックたちがアーシャに日本の行事を紹介する。】 アニメーションを視聴して、場面と話題をとらえる。	○聞		
二 (2)	季節ごとの行事を伝える言い方を知り、聞き取ることができる。	Let's Watch Let's Listen 季節ごとの行事についての会話から話題になった行事を聞き取る。	○聞		
	季節ごとの行事を伝えることができる。	Let's Try 好きな季節と行事を伝え合い、クラスで1番人気がある季節と行事を知る	●聞 (行動観察・ワークシート)		
三 (2)	日本でできることを伝える言い方を知ることができる。	Let's Watch アニメーションを視聴して、できることを伝える表現を確認する。	○話		
	日本でできることを伝えることができる。	Let's Try ・グループになって、日本でできることを紹介し合う。 ・自分が紹介したことを文に書く。	●話 (行動観察・ワークシート)		

四 (4) みら探英語	ALT に松東の魅力が伝わるように発表の準備をすることができる。	Let's Try ・みらい探究科の学習で自分たちが調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめる。		○話 (行動観察・ワークシート)	○話 (行動観察・ワークシート)
	ALT に松東の魅力が伝わるよう松東でできることや自分の考えや気持ちを伝えることができる。	Let's Try ・発表の練習をする。 ・ALT に質問したり，調べたりして発表内容を完成させる。 ・完成した人から練習をする。		○話 (行動観察・ワークシート)	
	ALT に松東の魅力が伝わるよう松東でできることや自分の考えや気持ちを伝えることができる。	Let's Try ・魅力が伝わるように，発表の練習をする。 ・ALT に聞いてもらったり，別のチームと発表し合ったりする。 ・よりよい発表になるように工夫する。		●話 (行動観察・ワークシート)	
	ALT に松東の魅力が伝わるように，発表することができる。	Let's Try ・自分が調べた松東の魅力を ALT に伝える。		●話●聞 (行動観察・ワークシート)	●話●聞 (行動観察・ワークシート)

6 カリキュラム開発研究 みらい探究科との関連

本校は小松市指定研究「未来の学びづくり研究事業」を受け，問題発見・課題解決能力の育成を目指し，総合的な学習の時間を「みらい探究科」と設定しカリキュラムの創造・実践を行っている。その一環として，みらい探究科の授業と教科の系統やつながりを意識した授業づくりを進めている。特に英語科との関連は，グローバルに他者と協働しながら自己の資質・能力を発揮していける人材を育成するには不可欠である。

そこで，みらい探究科と英語科の関連を強めた学び＝「みら探英語」の時間を設定する。英語科の言語活動の内容をみらい探究科の内容の一部とリンクさせることにより，グローバルな視点が変わり，英語で考える・表現するという，より主体的で意味のある必要感のある学びになると考える。同時に，国際的な感覚や多様な価値観に触れる機会を増やすことで，視野が広がり，課題に向き合う力や探究的な学びの質の向上が期待できる。

なお，単元計画に示した色付きの部分が，本校における「みら探英語」の授業である。4次では，みらい探究科で調べた松東の魅力を ALT に紹介する活動を設定した。

7 みらい探究科 単元の探究過程

第6学年 みらい探究科 探究過程【資料3-1】		11 住み続けられるまちづくりを
単元名【テーマ】	町づくりプロジェクト ～松東地区の魅力発見！活性化！～	
探究課題	魅力ある町づくりや地域活性化のために取り組んでいる地域や組織（町づくり）	
単元の目標	魅力ある町づくりのための調査・分析・表現を通して、課題解決能力や情報活用能力を養うとともに、松東地区の魅力を発信し、活性化を考える活動を通して、社会を支える一員となるための資質・能力を身に付けることができるようにする。	
月	小単元	情報活用 関連教科等
4	探究1 松東地区の魅力ある町づくりを探ろう 25時間	●教科 ○地域
5		●地域の施設を活用しよう（国語）
6		●情報と情報をつなげて伝える時（国語）
7	2年生の町たんけんで見つけた「町のすてき」をもっと詳しく追求して、今以上にふるさとを好きになりたいな。その魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいな 【課題設定①】松東地区にしかない自慢の魅力を調べよう ・食べ物＆特産品スポット，自然スポット，歴史スポット，文化芸術スポットについて調べる ・他の地区や外国と比べてどんな良さがあるのか調べる。 【情報収集①】3つの地区に分けて，情報を集めよう ・旧波佐谷小・旧金野小・旧西尾小地区に分けて分担を決める ・ウェブ検索，図書資料，聞き取り活動で詳しく情報収集する 【整理・分析①】見つけた魅力をシートにまとめよう 【まとめ・表現①】地区ごとの自慢の魅力を発表し合い，ふるさとの良さを交流しよう	●国の政治の仕組みと選挙（社会）
9	探究2 松東地区の魅力ある町づくりについて発信しよう 25時間	●子育て支援の願いを実現する政治（社会）
10		●私たちにできること（国語） ○地域の人への聞き取り
11		●U2 Welcome to Japan 4次（外国語）
12	【課題設定②】松東地区の魅力を伝えるための方法を考え，発信しよう 【情報収集②】現地に足を運び，インタビューや撮影を記録しよう ・だれに発信するのか考えたり，どんな方法があるか調べたりする。 ・日本だけでなく，外国の方にも伝えることができることを知る。 ・ALTの先生や外国の人に松東の魅力を発表する。 ・もっとくわしく調べ，そのお店や地域の人々の想いも聞き取る。 【整理・分析②】3地区を比較しながら，それぞれの人の想いにも焦点をあて魅力を整理する。 食べ物スポット 蛍米，穀雨，村田とうふ，ビュッフェせせらぎ 赤瀬さるなし，オーブ etc 自然スポット 十二ヶ滝，水芭蕉，千恵子桜，かなんぼ山，西俣キャンプ場，大倉岳スキー場 etc 文化・芸術家スポット 徳田八十吉陶房，観音下石切り場，大杉ミュージカルシアター，遊墨民カズ，鷹匠 etc 【まとめ・表現②】松東地区の魅力を世界中の人に発信しよう。 ・PR動画を作り，石川県の人，日本中の人，世界に向けて松東の魅力を発信する。	●資料の調べ方（算数）
1	探究3 町づくりのために，自分たちにできることを考えよう 20時間	●利用案内を読もう（国語）
2		●調べた情報の使い方（国語）
3		●日本文化を発信しよう（国語）
1	【課題設定③】観光プランを考えて，お客さんを呼ぼう！ 【情報収集③】観光プランをつくるために必要な情報を調べる。 【整理・分析③】方法を決定し，発信の準備をする。 【まとめ・表現③】パンフレットを作って，地域の人に発信する。	●資料の調べ方（算数）
育成を目指す情報活用能力	【課】 ①問題解決のために必要な情報活用の計画を立てる ②松東地区の問題を焦点化しゴールを明確にする 【情】 ①インタビュー調査やフィールドワークによる情報の収集と検証を理解する 【整】 ①関連付ける，多面的多角的にみる，見通す，などの技法を適切に選択・活用し，松東の町づくりについて関わりをもつ ②他の市町との相違点や類似点，規則性を見つけ，松東地区への転用や応用を意識しながら解決策を考察する ③批判的に考察しようとする 【ま/表】 ①相手に伝わるプレゼンを考える ②複数の情報を組み合わせて表現する ③聞き手とのやり取りをつくる	

8 本時の授業（第8時/総時数9時）

(1) 本時のねらい

松東地区の魅力が伝わるように、松東でできることや自分の考えや気持ちを伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 準備・資料等

学習用端末 大型テレビ

(3) 本時の展開

配時	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価【観点/方法】
10分	<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語で挨拶をする。 <p>2. Today's Goal 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【松東地区でできることを伝えよう！】</p> </div> <p>3. Let's Listen and Review</p> <ul style="list-style-type: none"> ハンナ先生の発表を聞いて前時の復習をする。 <p>Welcome to Roseville.</p> <p>You can visit ~.</p> <p>You can eat~.</p> <p>I like~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ◆評価【観点/方法】 ・ペアで今日の気分を聞き合う。よりよいコミュニケーションをしているペアを見つけ、全体に紹介する。 ・教室全体をよく見て、適切なコミュニケーションがとれているか見取り、指導する。 ・前時までに学習した表現を復習する。 ・ALTの発表を聞いたあとに、松東でできることを隣の人と発表し合う。 ・質問ができる人は相手に質問して、内容がより深まるようにする。 ・自分の考えや気持ちを伝えることができるように、自分とALTの発表の違いを考えながら聴くようにする。
10分	<p>4. Let's Try</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで発表を見せ合う ・質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内でよりたくさんの人と練習できるように声をかける。 ・何のためにペアで交流するのか、この活動の意図を明確にして、意味のある交流にする。
5分	<p>5. Let's Listen</p> <p>グッドモデルの発表を見て気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習してきた表現を使っているよ。 ・I like ~. で好きを伝えている。 ・It's ~. を使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完璧な英語でなくてもいいこと、コミュニケーションを取ろうとする意欲を大切にすることを伝える。 ・子どもからの質問は全体に共有して、全員で発表をよりよくする雰囲気を作っていく。 ・グッドモデルと自分の発表の違いから、できること以外の表現を使っていることに気付くようにする。
10分	<p>6. 自分の発表がよりよくなるように表現をつけ足したり、練習したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I like ~. を使おう ・It's ~. で自分の考えを入れよう。 ・もっと食べ物のことを伝えたいな。 ・You can see~で言えることもつけたしたいな。 ・ハンナ先生とジェニカ先生とで伝える内容をかえたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識と目的を明確にして、発表を完成させる。 ・思考を整理するために発表メモを作ってもいいことを伝える。

10分	<p>7. タブレットで自分の発表を撮影し、発表ノートで提出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Welcome to Shoto! You can visit ~ You can eat~ I like.... You can visit~ You can see~ It's ~.</p> </div> <p>8. ふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考えが伝わるように発表の内容を考えることができた。 	<p>◆松東地区の魅力が伝わるように、松東でできることや自分の考えや気持ちを伝えている。</p> <p>【思考・判断・表現/ワークシート・行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットで自分の発表を撮影し、その映像を客観的に振り返ることで、自分の発表の改善点を見つけ、次時に生かす。 今日のやりとりの中で、自分が1番紹介したいことは何か考えさせる。 授業の最初と比べて何が変わったのかを意識して書けるように伝える。
-----	---	---

9 板書計画

<松東地区でできることを伝えよう！>

<p>① Greeting</p> <p>② Let's Listen</p> <p>③ Let's Try (みんなで練習)</p> <p>④ まとめ (動画をとる)</p> <p>⑤ ふりかえり</p>	<table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">visit</td> <td style="padding: 5px;">see</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">eat</td> <td style="padding: 5px;">enjoy</td> </tr> </table>	visit	see	eat	enjoy	
visit	see					
eat	enjoy					

授業者のふりかえり

- みら探の学習で調べた「松東の魅力」を ALT に伝えるというゴール設定がよかった。単元を通して、子どもたちは相手意識をしっかりともち、目的をもって前向きに学習に取り組む姿が見られた。
- 英語で松東の魅力を伝え合う活動を通して、学習者の考えが次第に変容していく姿が非常に印象的であった。みら探の授業中には「私は絶対にこのお店を紹介する」と決めていた児童が、英語で表現していく過程で「やっぱりこのお店も紹介したい」と考えを広げていく姿が見られた。英語という言語を通すことで、自分の考えを見つめ直し、深めていく様子から、みら探×英語のよさを強く感じた。第2言語を学ぶ意味を実感できる実践となった。
- 本単元では「質問すること」を大切にしてきた。質問し合い、それに答えることで、自分の考えを再構築していくことをねらいとした。程度の差はあるものの、質問を通して考えを深めたり、相手の考えを取り入れたりできるようになった児童が見られ、子どもたちの成長を感じることができた。
- 一方で、教師が学習のルールを引きすぎてしまった場面もあった。子どもたちは、もっと自分で考え、自分なりの言葉で英語を使って発信する力をもっていたと感じる。今後は、教師が支援しすぎず、子どもが試行錯誤しながら表現をつくり上げていく時間をより大切にしていきたい。

指導・助言より**成果**

- 単元のゴール設定が適切であり、その目標に向かって子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいた。
- 子どもたち同士が質問し合う姿が見られ、これまでの授業の積み重ねの中で「質問する」ことを大切にしてきたことが伝わってきた。それに向けて、教師が継続的に問い返しや対話の場を設定してきた成果であると感じられた。

課題

- スモールトークの場面で、「What food do you like in Komatsu?」という質問文を教師が提示していたが、それは必要ではない。「Today' s topic is Komatsu food.」と話題だけを提示すれば十分であり、そこから子どもたちが自由に会話を広げていける時間を、スモールトークの段階からつくっていくことが大切である。
- 導入で教師が「I like ~.」「It' s ~.」という表現のお手本を示したことで、子どもたちは「この表現を使わなければならない」と受け取り、結果として全員が同じ表現を用いていた。子どもたちが本当に伝えたいことや、自分にとって必要な表現を考えるためには、最初に表現を限定して示すことは控える必要がある。英語の見方・考え方をはたらかせる授業にするためにも、子ども自身が表現を選び、試行錯誤できる余地を保障することが求められる。



単元名 【テーマ】	なかよしプロジェクトⅠ ～あきとなかよしになろう～
探究課題	秋探しと自然を生かした遊びづくり（環境） ※本単元は、第3学年「自然と友だちプロジェクト」との活動内容の関連があり、探究活動の基盤になるものである。
単元の目標	秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見つけたり、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったりするとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができる。

月	小単元	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
10	<p>秋の校庭や学校の外を歩いてみよう。どんな発見があるかな。 もっと秋を探しに行きたいな。楽しかったことを伝えたいな</p> <p>探究1 あきさがしをしよう 4時間</p> <p>【思いや願いをもつ①】「秋探しをしよう」 ・写真をもとに「なつともだち」の活動を思い出し、夏と秋の違いを予想して「秋探し」の視点をもつ。 【活動や体験をする①】「春や夏の様子とくらべながら、秋探しを楽しもう」 ・木場潟公園に出かけ、秋の植物や生き物に関心をもち、諸感覚を使って秋らしさを感じ取る。（見た目の変化、気温の変化、動植物の変化等） 【感じる・考える①】「落ち葉や木の実などを集めたものの、色や形の面白さや特徴を見つけたりしよう」 ・秋の自然物の特徴を見つける。 ・見つけた秋や体験して楽しかったことなどを発見カード等に表す。 【伝え合う①】「秋探しで見つけたことを紹介し合おう」 ・夏と秋を比較して発見したことを友達やALTと伝え合う。 ・ALTから色や形の英語の表現を教わったり、外国の秋の様子について聞いたりする。 ・活動を振り返り「もっと秋で遊びたい」と願いをもつ。</p> <p>見つけた秋で遊びたいな。</p> <p>探究2 みつけたあきであそんでみよう 4時間</p> <p>【思いや願いをもつ②】「秋の自然物を使って飾るものや、遊べるものを作って遊ぼう」 ・秋で見つけたものを使って、作りたいものややってみようことについて友だちとアイデアを出し合う。 ・担任の先生やALTに、どんなことをしたことがあるか聞いてみる。 【活動や体験をする②】「何を作りたいか考えよう」 ・図鑑や本で調べたり、相談したりしながら、作りたいもののイメージをもつ。 【感じる・考える②】「飾るものや遊ぶものを作ろう」 ・いろいろ試しながら、飾るものや遊ぶものを、ALTを交えて工夫して作る。 【伝え合う②】「作ったものを使って遊ぼう」 ・作ったものや発見したものを紹介し合いながら、楽しく遊ぶ。 ・活動をふり返り「年長さんを招待して秋まつりをひらきたい」等という思いを引き出す。</p> <p>年長さんを招待し、みんなで協力して秋まつりをひらこう</p> <p>探究3 みんなであきをたのしもう 7時間</p> <p>【思いや願いをもつ③】「年長さんに喜んでもらえるような秋まつりをひらこう」 ・楽しかったおもちゃを、年長さんにも楽しんでもらうにはどうすればよいか話し合う。 【活動や体験をする③】「コーナーやルール、約束づくりをしよう」 ・コーナーづくりをする。・ルールや約束を決める。・役割分担をする。 ・各コーナーで遊び、年長さんがより楽しむにはどうしたら良いか改善策を考える。 【感じる・考える③】「遊び方を伝える動画をつくろう」 ・説明する台本を書いて、伝わるかどうか友だちにきいてもう。 ・動画を撮影し、見直したり他のグループのものを見比べたりしてわかりやすい動画になるよう試行錯誤する。 【伝え合う③】「秋まつりを通してみんなで秋を楽しもう」 ・こども園の幼児（年長さん）を招待し、秋まつりをひらく。 ・活動をふり返る。 ・「ALTや他の学年にも遊んでほしい」という思いをもつ。</p>	<p>【思】①</p> <p>【活】①</p> <p>【伝】①</p> <p>【思】②</p> <p>【活】②</p> <p>【思】③</p> <p>【活】③</p> <p>【伝】③</p>	<p>●しらせたいな、見せたいな（国語） ●秋を見つけよう（生活） ○木場潟公園</p> <p>☆色遊び（GT）</p> <p>☆形遊び（GT）</p> <p>●おちばや木のみでつくろう（生活） ●つくったおもちゃであそぼう（生活） ●こすりだしからうまれたよ（図工） ●つくってへんしん（図工） ●ふわっふわッゴー（図工） ●てがみでしらせよう（国語） ○松東こども園の年長児及び保育士</p>

育成を目指す情報活用能力

【思】①秋探しで見つけたものを使って、どんな遊びができるか疑問をもつ。②自分たちが体験したおもちゃを年長さんに楽しんでもらう。③秋まつりにするにはどんなことが必要か疑問をもつ。
【活】①春や夏の写真と秋探しの写真を比べて季節による違いや、どの順序で変化したのか理解する。②友だちのおもちゃや遊び方との違いを見つけ、より楽しく遊べるポイントを集める。③他のグループの説明動画と比較して分かりやすくする工夫を見つける。
【伝】①秋探しで見つけたことを自分の言葉で、簡潔に発表する。③自分の言葉で説明の台本を書いたり、画角を工夫したりして、わかりやすい動画にする。

第1学年 みらい探究科における指導と評価の計画【資料 3-2】

単元名	なかよしプロジェクトⅠ ～あきとなかよしになろう～
単元の目標	秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見つけたり、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったりするとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①校庭や公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気づいている。 ②秋の自然物を生かした飾るものや遊ぶものをつくるために図鑑や本などを用いて調べている。 ③遊びには約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気づいている。	①楽しみたい遊びを思い描きながら、校庭や公園の秋の自然の中から遊びに使うものを選んでいく。 ②諸感覚を生かして、校庭や公園の秋の自然に関わっている。 ③自分たちが作成した飾るものや遊ぶものをよりよく楽しむためにはどうしたらよいか、改善した遊びの約束やルールなどを考えている。 ④遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。	①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や公園の秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。 ②校庭や公園の秋の自然の様子や特徴に応じながら、それらと関わろうとしている。 ③みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

指導と評価の計画

小単元(時間)		学習活動	知	思	主	評価方法
1	あきさがしをしよう(4)	・秋について知っていることや園などで経験したことのある遊びなどを出し合う。				行動観察 発言
		・校庭や公園などで秋見つけをする。			①	行動観察 発言
		・公園などで見つけた秋の様子や特徴、夏からの移り変わりについて、気づいたことを自分なりの方法で表している。	①	②		行動観察 発言
2	みつけたあきであそんでみよう(4)	・図鑑や本で調べたり、相談したりしながら、つくりたいものを考える。	②	①		行動観察 発言 ワークシート
		・秋の自然や身近にあるものを利用して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ったり、作ったもので遊んだりする。			④ ②	行動観察 発言 ワークシート 表現物
3	みんなであきをたのしもう(7)	・役割分担をしてコーナーづくりやルールづくりをする。			③	行動観察 発言 表現物
		・「あきまつり」を開いて、みんなで楽しく遊ぶ。	③			行動観察 発言
		・これまでの活動をふりかえり、秋の思い出や秋の自然と自分との関わりなどについて、言葉や絵で表現したり、伝え合ったりする。			③	行動観察 発言 ワークシート

単元名【テーマ】	なかよしプロジェクトⅡ ～町になかよしの輪をひろげよう～
探究課題	町探検とそこに住んでいる人々とのつながり（町づくり）
単元の目標	町の自然、人々、社会、公共施設などに関心を持ち、調べたり、体験したり関わったりする活動を通して、町のすてきなところやそこに住む人々の温かさに気づくとともに、進んでふれあい交流しようとする。

月	小単元	町には、どんな人がいたり、どんなものがあつたりするのかな？	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
5	探究1 いろいろ知りたいたんけん隊 10時間	<p>【思いや願いをもつ①】「町たんけんに出かけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の人や場所、建物などの情報を集める。 ALTの育った町について聞く。 家の人や近所の人などにも聞く。 集めた情報をカードにまとめ、友達に教える。 <p>【活動や体験をする①】「どこに行くか 考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 探検する方面や場所を決める (波佐谷・瀬領方面/金平・西尾方面/大野・五国寺方面) <p>【感じる・考える①】「たんけんに出かけ、町のすてきを見つけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> すてきを感じるもの(木、岩、自然、場所、建物)を見つける。 <p>【伝え合う①】「見つけたすてきを 伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた「町のすてき」をマップに表す。 (お店や公民館などの施設、生きものや山、川などの自然の分布) もっと知りたいことをワークシートに書く。 ALTから昆虫や動物の英語を教わったり、それらの鳴き方を聞いたりする。 	<p>【思】①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○波佐谷方面周辺、瀬領防災倉庫周辺(スクールバス) ○金野町散策、金平公民館周辺、旧西尾小学校周辺(スクールバス) <p>【活】①</p> <p>【感】①</p>	<p>●教科 ○地域</p> <p>☆動物・昆虫 探し(GT)</p>
6	探究2 町のこともっと知ろう 10時間	<p>【思いや願いをもつ②】「もう一度 町たんけんに出かけたいな」</p> <ul style="list-style-type: none"> グループや方面ごとに、出かける計画を立てる。 知りたいこと、聞きたいことを明確にする。 インタビューの練習をする。 ほかの先生やALTに、どんなことを知りたいか聞いてみる。 <p>【活動や体験をする②】「もう一度 町たんけんに出かけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューをして詳しく知る。 町の人たちと、もっと仲良くなる。 <p>【感じる・考える②】「わかったことやさらに見つけたすてきをまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙に絵や文章でまとめたり、スライドに写真や言葉でまとめたりする。 気づいたことの中から、XチャートやYチャートを使って伝えたいことを分類する。 <p>【伝え合う②】「わかったことを 伝えたいな」</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに交流する。 	<p>【思】②</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メモをとるとき(国語) ●こんなもの、見つけたよ(国語) <p>【活】②</p> <p>【感】②</p>	
11	探究3 町のすてきを伝えよう 5時間	<p>【思いや願いをもつ③】「お世話になった人やお家の人に伝えたいな」</p> <ul style="list-style-type: none"> どなたを招待するか考える。 <p>【感じる・考える③】「どんなふうに伝えようかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> 見せ方や話し方の工夫を考える。 出会った人々のよさも伝える。 <p>【伝え合う③】『町のすてきを伝えよう』発表会を開こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 会場の準備をする。 グループごとに発表する。 学習のふり返りをする。 	<p>【思】③</p> <p>【活】③</p> <p>【感】③</p> <p>【伝】③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●おもちゃの作り方をせつめいしよう(国語) ○お世話になった地域の方

もっと知りたいな。もっと聞きたいな。

他の人にも、町のすてきを伝えたいな。

育成を目指す情報活用能力

【思】①町たんけんを通し、町について興味をもつ。②インタビューを通し、町について興味をもつ。
 【活】①・町たんけんの中で見たことや聞いたことを情報としてとらえる。・町ごとの共通点や相違点に気づく。
 【感】①町たんけんで見つけたことを、簡単な絵や図にまとめる。②気づいたことの中から、表や思考ツールを使って伝えたいことを分類する。
 【伝】③・伝わりやすい発表の方法を選択する。・相手が理解できるような言葉や写真を使ってプレゼンをする。

第2学年 みらい探究科における指導と評価の計画【資料 3-2】

単元名	なかよしプロジェクトⅡ～町になかよしの輪をひろげよう～
単元の目標	町の自然、人々、社会、公共施設などに関心を持ち、調べたり、体験したり関わったりする活動を通して、町のすてきやそこに住む人々の温かさに気付くとともに、進んでふれあい交流しようとする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①町の自然や人々、店舗、公共施設などの様子や、自分たちの生活との関わり、町の良さに気づいている。 ②町で働いている人や住んでいる人の町への思いに気づくとともに、町の新たな良さに気づいている。 ③様々な人々に関わったりする際、相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしている。	①行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを思い描きながら、探検の計画を立てている。 ②探検で見つけたことや楽しかったこと、関わった人の中から、伝えたいことを選んでそれを表現している。 ③さらに聞いてみたいことを決め、相手や場に応じた行動を意識しながら、町の人と関わっている。 ④相手意識や目的意識をもって、分かりやすい伝え方を工夫して、伝え合っている。	①地域の町に関心を持ち、町の人々や様々な場所に親しみをもって関わろうとしている。 ②安全で礼儀正しい町たんけんが行えるように進んで準備しようとしている。 ③地域の町や人々への親しみや愛着をもち、それらを大切にしようとしている。

指導と評価の計画

小単元(時間)	学習活動	知	思	主	評価方法
1 いろいろ知りたい たんけん隊 (10)	町たんけんに出かけよう ・町の人や場所、建物などの情報を集める。			①	行動観察 発言
	どこに行くか 考えよう ・探検する方面や場所をきめる。		①		行動観察 発言 ワークシート
	たんけんに出かけ 町のすてきを見つけよう ・すてきを感じるものを見つける。	①			行動観察 発言
	見つけたすてきを 伝えよう ・見つけた町のすてきを伝える。 ・もっと知りたいことを考える。				行動観察 発言 ワークシート
2 町のことを もっと知ろう (10)	もう一ど 町たんけんに出かけたいな ・グループや方面ごとに、出かける計画を立てる。			②	行動観察 発言 ワークシート
	もう一ど 町たんけんに出かけよう ・インタビューをして詳しく知る。 ・町の人たちと、もっと仲良くなる。	③	③		行動観察 発言
	わかったことやさらに見つけたすてきをまとめよう ・チャートを使って伝えたいことを分類する。 ・紙やスライドでまとめる。		②		行動観察 発言 表現物
	わかったことを 伝えたいな ・グループごとに交流する。	②			行動観察 発言
3 町のすてきを 伝えよう (5)	どんなふう伝えようかな ・見せ方や話し方の工夫を考える。		④		行動観察 発言
	「町のすてきを伝えよう」発表会を開こう ・グループごとに発表する。 ・学習のふり返りをする。			③	行動観察 発言 ワークシート



単元名 【テーマ】	自然と友だちプロジェクト ～川と友だち～
探究課題	身近な自然環境と人との関わり（環境）
単元の目標	大杉谷川の自然環境へ関わる活動を通して、多様な生物が生息していることや、大杉谷川を大切にしたりする人や組織があることを理解し、今後の大杉谷川の在り方について考えとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

月	小単元	社会科で町を歩いた時に見えた川だね もっと近くで見て見たいな どんな生き物がいるか知りたいな	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域	
4	探究1 川を知ろう 25時間	【課題設定①】大杉谷川ってどんな川かな？ ・社会科「学校のまわり」で見つけた大杉谷川について、「友だちになる」にはどんなことができたらいかがアイデアを出し合う。 【情報収集①】大杉谷川にいる生き物について、調べてみよう ・大杉谷川についてよく知っている上級生や先生に取材する。 ・図鑑や図録を使って、取材で知った生き物について調べる。 ・アユの放流体験で、アユや川の生き物について知る。 ・地域の方と一緒に水棲生物の調査をする。 ・グループで調べたことを発表ノートにためていく。 ・カジカの放流体験で、波佐谷町の川の様子を知る。 【整理・分析①】大杉谷川ってどんな川かな？ ・これまでの体験や調べ学習で分かったことを整理する。 【まとめ・表現①】大杉谷川って〇〇な川！ ・これまで知ったことや印象に残ったことを発表ノートにまとめて、大杉谷川のよさをクラスやALTに向けて発表する。	情報活用 【課】① 【整】①	●もっと知りたい、友だちのこと（国語） ○アユの放流（大杉谷川漁業協同組合 河西さん） ○水棲生物調査（大杉谷川をよみがえらせる会）	
5		探究2 川を紹介しよう 25時間	大杉谷川ってとてもきれいでいろんな生き物がいて大好きだな。わたしたちが感じた大杉谷川の良さをみんなに伝えるにはどうしたらいいかな。 【課題設定②】大好きな川を紹介しよう ・大杉谷川のよさをみんなに紹介する方法を話し合う。 【情報収集②】大杉谷川を紹介するにはどんなことを伝えたいかな ・もう一度川に出かけて、生き物の他にも魅力を集める。 【整理・分析②】大杉谷川のよさが伝わるスライドや台本にしよう ・整理したことを表やスライドにまとめる。 ・大杉谷川のよさとして何をどのように取り上げるか工夫して台本をつくる。 【まとめ・表現②】全校のみんなに大杉谷川のいいところを知ってもらおう ・文化祭でプレゼンと併せて大杉谷川のよさを伝える発表をする。 ・発表の感想をお家の人や他学年に聞く。 大杉谷川のよさがみんなに伝わってよかったな。けれど、川の魚が減っていると聞いたよ。ぼくたちにできることはないかな。	【課】② 【情】②	●食べ物のひみつ教えます（国語） ●つないでつけて（図工）
6			探究3 できることを考えよう 20時間	【課題設定③】大杉谷川の魚が減らないようにするには、何ができるかな ・大杉谷川をよみがえらせる会の方のお話を聞き、魚が減っている要因と考えられることを知る。 【情報収集③】川の魚をとりまく地球環境はどのような状態かな ・ALTに世界のいろいろな国の川の生き物や問題点について教わる。 ・地球環境が川の魚に及ぼす影響を、図書資料やサイトを使って調べる。 【整理・分析③】自分たちが関われることを考えよう ・環境問題に対して、自分ができていることを具体的に考える。 ・できそうなこととできなさそうなことを、座標軸を使って分類する。 【まとめ・表現③】環境を守るために自分ができることをまとめて伝えよう ・環境を守る行動をポスターにまとめ、おうちの方に宣言する。	【整】③ 【ま表】②③

育成を目指す情報活用能力	【課】① 魚の放流で経験した情報から課題を見つける。 ② 大杉谷川の良さがわかる情報を活用する見通しを立てる。 【情】② 水生生物の調査やGTからもらった資料から情報収集し、情報同士のつながりを見つける。 【整】① ・生き物別などの観点を決めた表を用いて整理する。・自分で調べた情報と、友達が調べた情報を組み合わせる。 ③ ・できることとできないことを分類する。・全体的な特徴や要点を捉え新たな考えを見出す。 【ま/表】② 相手に合わせた表現を選択する。 ③ 相手や目的を意識したプレゼンを考える。
--------------	--

単元名	自然と友だちプロジェクト～川と友だち～
単元の目標	大杉谷川の自然環境へ関わる活動を通して、多様な生物が生息していることや、大杉谷川を大切にす る人や組織があることを理解し、今後の大杉谷川の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生 かすことができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大杉谷川には多様な生き物がいることや周りの環境の特徴やよさを理解している。 ②大杉谷川の現状を捉えるために、目的に応じた方法で生物調査や採集を実施している。 ③大杉谷川の現状や地域の人の川を大切にす る思いへの理解は、探究的に学習してきたこと の成果であることに気づいている。	①大杉谷川での体験や調査を通して感じた 関心をもとに大杉谷川のよさを探る課題を 自らつくり、解決に向けて見通しをもってい る。 ②大杉谷川の現状を捉えるために必要な情 報について、多様な方法で収集したり、種 類に応じて蓄積したりしている。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択した り、複数の情報を比較したり関係付けたり しながら解決に向けて考えている。 ④大杉谷川のよさや地域の人の思い、自分 の考えについて、地図や写真などの資料を 使って効果的に表し、報告書にまとめてい る。	①課題解決に向けた自己の取り組み を振り返ることを通して、自分の意 志で探究的な活動に取り組もうとし ている。 ②大杉谷川のよさを見つけたり伝え たりする活動を通して、自分と違う 友達の考えを生かしながら、協働し て課題解決に取り組もうとしてい る。 ③大杉谷川の現状を捉える活動や在 り方について考えることを通して、 自分と身近な環境との関りを見直 そうとしている。

指導と評価の計画

小単元(時間)		学習活動	知	思	主	評価方法
1	川を知ろう (25時間)	・大杉谷川について知りたいことについて計画を立てて取 材したり、調べたりする。	①			ワーク シート
		・地域の方と一しょに水棲生物調査をして、分かったこと をまとめる。	②			生物調査の 様子とノート
		・分かったことについて、グループで情報を選択しまとめる。				ワーク シート
2	川を紹介しよう (25時間)	・これまでの学習活動で分かった大杉谷川の生き物や特徴 について、分類し、グループに分かれる。		①		ワーク シート
		・本、図鑑、インターネットを使って、水棲生物についてさら に詳しく調べる。		②		ワーク シート
		・大杉谷川で見つけた生き物や植物を使って、川のよさを 表現する作品をつくる。			④	作品・ プレゼン
		・図や写真、絵などを描き、大杉谷川の良さを伝え、感想を もらう。	③		①	作品
3	できることを考えよう (20時間)	・大杉谷川の魚が減っている原因を調べる。				
		・様々な要因を、グループに分かれて調査する。		③	②	ワーク シート
		・環境について、身の回りのできることを考える。			③	ワーク シート
		・環境ポスターの作成。				ポスター

第4学年 みらい探究科 探究過程【資料3-1】



単元名 【テーマ】	みんなスマイルプロジェクト ～やさしさの輪を広げよう～
探究課題	身の回りの高齢者や障がいのある人とその暮らしを支援する仕組みや人々（福祉）
単元の目標	高齢者や障害のある人と関わる活動や体験活動を通して、高齢者や障害のある人の感じ方や考え方を理解し、物理的なバリアフリーや心のバリアフリーについて考えることによって、自らの行動に変化を起こすことができるようにする。

月	小単元	学校の中にも生活しやすくなっている工夫はあるのかな。見つけてみよう！	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
4	探究1	<p>【課題設定①】バリアフリーって何かな？どんなところにあるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や学校周辺の施設の見学や体験を通してバリアフリーを知る。 ユニバーサルデザインもバリアフリーであることを知る。 身近なバリアフリーにはどのようなものがあるかをウェビングで広げる。 <p>【情報収集①】日常生活に困難を抱える方の気持ちを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者体験や車いす体験、アイマスク体験を通して、社会にある様々なバリアを知る。 インターネットや本で、バリアフリーについて調べる。 瀬領特別支援学校との交流①（相手を思う気持ちの表現の場） <p>【整理・分析①】体が不自由な人はどんな生活をしているのかな</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験したことや調べて分かったこと、話を聞いて分かったことや疑問に思ったことを、マトリクス表に整理する 「4つのバリア」について、体験したこととつなげて考える。 <p>【まとめ・表現①】『バリアフリー』とはどういうこと？</p> <ul style="list-style-type: none"> バリアフリーやユニバーサルデザインについて分かったことを意見文にまとめる。 <p>脚や体が不自由な方の気持ちは少しわかった。では、目や耳が不自由な方は、どんな気持ちでいるのかな。</p>	<p>【課】①</p> <p>【情】①</p> <p>【整】①</p>	<p>●聞き取りメモの工夫（国語）</p> <p>○小松市社会福祉協議会 ○瀬領特別支援学校</p> <p>●アップとルーズで伝える（国語） ●要約するとき（国語）</p>
5	バリアフリーやユニバーサルデザインについて知ろう			
6	25時間			
7	探究2	<p>【課題設定②】目や耳が不自由な方の気持ちを考えよう ★体験 ★アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 点字の絵本を実際に触り、どのような人が使っているのか考える。 <p>【情報収集②】手話や点字を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の見学（JA、郵便局、図書館、駅、サイエンスヒルズ 等） 実際の人の話を聞く。アンケートによる調査を行う。 本やインターネットで調べる。・ALTに海外の手話・点字について教わる。 ・手話体験、手話で歌う、点字体験、点字で名前を打つなどの体験をする。 <p>【整理・分析②】もう一度、バリアフリーを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを「4つのバリア」のどれに相当するか分類する。 生活の中にある様々なバリアを表に分類する。 <p>【まとめ・表現②】経験からわかったことを紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を活用し、歌や自己紹介に生かす。 分かったこと、考えたことをスライドにまとめ、クラスやALTに発表する。 手話と英語を使い、身近なバリアフリーを紹介する。 <p>障害があっても、自分でできることがたくさんあることがわかった。でも、体に不自由さがある方に、わたしたちができることには、何があるのだろう</p>	<p>【課】②</p> <p>【整】②</p> <p>【ま】②</p>	<p>○点訳友の会</p> <p>●U1 Hello, world!（外活）</p> <p>●クラスみんな決めてには（国語） ●お礼の気持ちを伝えよう（国語）</p>
9	もっとバリアフリーやユニバーサルデザインについて知ろう			
10	25時間			
11	探究3	<p>【課題設定③】やさしさの輪・バリアフリーを広げるためにできることは何かな</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なところにあるバリアや心のバリアを変えていくために、自分たちができることを考える。 <p>【情報収集③】サポートしている人の工夫や、サポートの仕組みは、どのようなものがあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 「福祉・介護施設で働く人」にインタビューをする。（JA きらら、梅の木学園、こども園など） 小松市には障害がある方を支えるために、どんな仕組みがあるか調べる。 工夫している地域の取り組みを参考に調べる。 <p>【整理・分析③】どんな人とでもいっしょに笑顔で過ごすためには、何が大切かな</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを整理する。 <p>【まとめ・表現③】『みんなスマイル』とはどういうこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが学んだことをリーフレットや新聞、スライドにまとめ、地域や家族に伝える。 	<p>【情】③</p> <p>【ま】③</p>	<p>●調べ方と整理の仕方（算数）</p> <p>○JA きらら ○こども園 ○梅の木学園</p> <p>●さんぼ（音楽）</p>
1	やさしい地区松東にしよう			
2	20時間			
3				

育成を目指す情報活用能力	<p>【課】①学校のバリアフリー探しから課題を見つける。②実際の人の話を聞いたり体験したりしてつかんだ情報の活用を見通しを立てる。</p> <p>【情】①体験や調べ学習から情報を収集し、情報同士のつながりを見つける。③これまでの体験と調べ学習を通して情報の関係を理解する。</p> <p>【整】①自分で体験したことや集めた情報を組み合わせる。②スマイルにしたい対象者をイメージマップにする。</p> <p>【ま/表】②発表する相手に合わせた表現を選択する。③やさしさの輪を広げる目的に合わせた表現方法を考える。</p>
--------------	---

単元名	みんなスマイルプロジェクト～やさしさの輪を広げよう～
単元の目標	高齢者や障害のある人と関わる活動や体験活動を通して、高齢者や障害のある人の感じ方や考え方を理解し、物理的なバリアフリーや心のバリアフリーについて考えることによって、自らの行動に変化を起こすことができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分たちの周りには高齢者や障害のある人が生活していることを知るとともに、福祉についての現状や問題について考え、バリアフリーの大切さを理解している。 ②インタビューやアンケートによる調査を、相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③福祉に対する自らの認識の高まりは、高齢者や障害のある人、全ての人をつなげるために探求的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①高齢者や障害のある人、全ての人が安心・安全に暮らせるようにするために自分たちにできることは何か、解決の見通しをもって計画を立てている。 ②バリアフリーを必要とする人に実施するインタビューや地域の人に実施するアンケート調査において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。 ③体験したり調べたりしてわかったことを比較・関連付けし、なぜバリアフリーが必要なのか、どのようなバリアフリーが必要なのか確かな理由や根拠を見いだしている。 ④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かして、新聞やリーフレット、スライド等の効果的な方法で表現している。	①バリアフリーを必要とする人にインタビューをすることで、自分とは異なるバリアフリーを必要とする人の立場について考え、全ての人が安心・安全に暮らす方法を見いだそうとしている。 ②地域のバリアフリーについて考え、リーフレットを作成するために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。 ③地域のバリアフリーについて考え、自らの生活や行動に生かそうと問題解決に取り組んでいる。

指導と評価の計画

小単元(時間)	学習活動	知	思	主	評価方法
1 バリアフリーやユニバーサルデザインについて知ろう (25)	・学校の施設について調べることでバリアフリーに触れ、バリアフリーについて調べる。				ワークシート
	・高齢者体験、アイマスク体験、車椅子体験などを行い、問題点を見いだす。				行動観察 ワークシート
	・バリアフリーを必要とする人と触れ合い対話する。			①	行動観察
	・バリアフリーについて、体験したことや調べて分かったこと、話を聞いて分かったことや疑問に思ったことを意見文にまとめる。	①			意見文
2 もっとバリアフリーやユニバーサルデザインについて知ろう (25)	・目や耳が不自由な方の気持ちを考えながら、何ができるかを調べようと思通しをもつ。		①		行動観察 ワークシート
	・目や耳が不自由な方と触れ合い、体験を通して調べる。		②		行動観察 ワークシート
	・地域の人にアンケート調査を行う。	②			行動観察 アンケート用紙
	・調べて分かったことを地図に表したりアンケート結果を集計したりして、身の周りの現状を知り、バリアフリーについて改めて考える。		③		行動観察 ワークシート
3 やさしい地区松東にしよう (20)	・老人ホームで働く人にインタビューを行い、高齢者などどのように関わっているかを知る。				行動観察 インタビュー用紙
	・インターネット、書籍、インタビュー等で、バリアフリーについて工夫している地域の取り組みについて調べる。			②	行動観察 ワークシート
	・身近なことや松東地区のことについて調べ、考えたことについて、リーフレットや新聞、スライド等にまとめ、家族や松東地区に住む人たちに知らせる。	④	③		成果物

第5学年 みらい探究科 探究過程 【資料3-1】

単元名 【テーマ】	お米プロジェクト ～お米の魅力を発信しよう～	15 環境と共生 のちから を つなぐ	9 産業と地域振興 の ちから を つなぐ
探究課題	米作りの課題とそれに関わる地域の農業や生産者（食）		
単元の目標	「おいしい米を作って食べたい」という思いを切り口とし、稲作の実情に触れる活動を通して、地域の生産者の思いや願いを理解し、米の消費等に関する課題の解決を目指して探究するとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

月	小単元	探究内容	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
		お米に関わることをイメージマップに表し、「おいしいお米を作って食べたい」と考えた。		
4	探究1	<p>【課題設定①】 自分たちで育てたお米でおいしいご飯をつくりたい 何をどのように育てたらよいのだろう。何が必要だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェビングマップを使って米作りに関する印象を共有し、思いと興味を引き出す <p>【情報収集①】 米作りについての情報を集めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験 ・JA、稲作農家との交流 ・米作りに必要なもの、手順、経費などをインターネットや本を使って調べる <p>【整理・分析①】 集めた情報を整理し、米作りの苦労や工夫に迫ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったことを短冊に表し、目的に合うものを取捨選択し、構成を整理する <p>【まとめ・表現①】 わかったことを報告書にまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワードを使い、写真・表などを用いた報告書にまとめる <p>実際にやってみると、米作りはとても手間がかかり、苦労が多いものだ だとわかった。そんなお米なのに、消費量が減ってきているなんて！</p>	<p>【課】①</p> <p>【情】①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●きいてきいてきいてみよう(国語) ○育苗見学・田植え体験 ●植物の発芽と成長(理科) ●目的に応じて応用するとき・みんなが伝えやすいデザイン(国語報告文) ●米作りのさかなな地域(社会) ○稲刈り体験・ライスセンター見学 ●自然環境を守るために・統計資料の読み方(国語) ●平均とその利用・見積を使って(算数) ○GT招いての授業
5	米作りから見える農家のすごさ			
6	25時間			
7	探究2	<p>【課題設定②】 日本のお米作りは、何が問題となっているのだろう。お米の消費量を増やすにはどんな工夫をしているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KJ法やウェビングマップを使って調べたいことを引き出し、目的に合わせて焦点化し、調査項目を類型化する。 <p>【情報収集②】 グループで知りたい情報をたくさん集めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家さんやJA職員などのGTを招いて話を聞く。 お米の消費についてフォームでアンケート調査をする。 ・お米に対する意識、生産コストの課題、生産量の課題、外国人向けの宣伝等 <p>日本人や外国人など、幅広い消費者へのPRが消費拡大につながりそうだ</p> <p>【課題設定②】 ところで、日本人だけでなく外国の人たちは米のことをどう思っているのだろう</p> <p>【情報収集②】 外国の主食について、英語を使って取材しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTや身近な外国の人と英語を介して情報収集する <p>【整理分析②】 収集した結果の整理・報告会を通して、消費量を増やす作戦を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボックスチャート、ピラミッドチャートを用いて、米作りの秘密や工夫、米の利点などについて伝えたいことのポイントや対象を明確にする <p>【まとめ・表現②】 みんなにお米の秘密やすごさと、松東地区のお米のすごさを伝えて、今以上にお米を食べてもらおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドでまとめたものを、学校内模擬発表を見合ってアドバイスし修正する ・収穫祭で農家の方やゲストに発表し、フォームのアンケートを元に再修正する ・地域の人やALTに発信する <p>全校のみんなや地域の方にお米のよさや工夫を知ってもらえた。もっと多くの人にお米をたくさん食べてもらうにはどうしたらいいかな。</p>	<p>【課】②</p> <p>【情】②</p> <p>【整】②</p> <p>【ま表】②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●割合のグラフ(算数) ●食べて元気！ご飯とみそ汁(家庭) ○収穫祭 ●情報を生かす産業・情報を生かすわたしたち(社会) ●U8 This is my town.(外国語)
9	自分たちでできることを考えよう			
10	25時間			
11	探究3	<p>【課題設定③】 みんなにお米をたくさん食べてほしいからPRを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなPRをしたらよいか、対象、発信場所を考えて試作する。 ・CM、ポスター、プレゼン、ショート動画 等、適切な発信手段を考える <p>【情報収集③】 みんなが食べたくなるようなPRになっているかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者や地域の人、ALTや外国の人の感想を集める <p>【整理・分析③】 試作版をどう再構成するか検討しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた感想を、生成AIを用いて分類し、再構成が必要な部分を検討する。 ・最も伝えたい情報を、ピラミッドチャートを用いて整理し、検討する <p>【まとめ・表現③】 完成版に仕上げて全校や地域にPRを届けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年や外国の人を含めた地域の人に発信し、評価を元に成果を判断する 	<p>【整】③</p> <p>【ま表】③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども未来科」で何をする(提案文、スピーチ 国語)
12	学校・地域に広げよう			
1	20時間			

育成を目指す情報活用能力	<p>【課】①米作りで表出した問題や困り感を焦点化しゴールを明確にする ②問題解決のための情報活用の計画を立てる</p> <p>【情】①・米作り体験による実地調査や、米の生育観察、インタビュー調査等による情報の収集と検証を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト、書籍、雑誌等、必要な情報メディアを選択する ②調査や実地等を組み合わせる <p>【整】②・目的に応じた表やグラフを適切に活用する・関連付ける、理由づける、見通す、などの技法を適切に選択・活用し、農家の苦労や工夫を理解したり地域の稲作が抱える困難に気づいたりする ③自らの活動を批判的に考察しようとする</p> <p>【ま/表】② ②調べたことや経験したことなど複数の情報を組み合わせる</p> <p>③・相手に伝わるプレゼンやPRを考える・対象者とのやり取りをつくる</p>
--------------	---

第5学年

みらい探究科における指導と評価の計画【資料 3-2】

単元名	お米プロジェクト ～お米の魅力を発信しよう～
単元の目標	「おいしいお米を作って食べたい」を切り口とし、米作り体験や松東地区の稲作の実情に触れる活動を通して、地域の生産者の想いや願いを理解し、米の消費等に関する課題の解決を目指して探究するとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①松東地区の米作りの調査活動を通して、米作りの過程を知るとともに、米作りと環境保全のつながりを理解している。 ②インタビューやアンケートによる家庭及び地域調査を、相手や場面に応じた方法で実施している。 ③松東地区の米消費量アップを呼びかけることは、松東地区の活性化にもつながり、探究的に学習してきたことの成果であることに気づいている。	①問題状況の中から課題を発見・設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てている。 ②多様な情報にある特徴を見つけ、事象を比較・分類し、確かな根拠付けをもとに課題の解決に向けて考えている。 ③アンケート結果をグループごとに整理・分析し、客観的な視点にたつて課題を見出し、分析内容に照らして改善策を考えたり、改善効果を予測したりしている。 ④相手や目的・意図に応じて工夫してまとめ、多様な方法で表現・発信している。	①地域の米作り農家やJAのゲストティーチャーから米作りの過程や地域ならではの特徴などを学び、探究活動に生かそうとしている。 ②様々な調査活動を行うにあたって、目的意識を明確にして地域の方やゲストティーチャーの方と関わろうとしたり、友達と協力して調査活動やCM作成に取り組もうとしたりしている。 ③PRづくりを通して、実生活・実社会の問題解決に継続的に取り組もうとしている。

小単元（時間）	学習活動	知	思	主	評価方法
1 米作りから見える農家のすごさ（25）	・米作りをテーマにウェビングマップし、「おいしいお米作り」に必要なものや手順、苦労や工夫に迫る。				
	・松東地区での米作りの過程を調査したり、米作りの体験を行ったりする。			①	行動観察
	・調査や体験を通して分かったことや疑問に思ったことの情報整理・分類する。調べて分かった数値を表やグラフに整理する。	②			
2 自分たちでできることを考えよう（25）	・米作りの過程を知るとともに、米作りと環境保全のつながりを理解する。	①			ワークシート
	・地域の米作り農家の現状を知る。 ・蛍米に関するデータを根拠に、生産量の推移を読み取ったり生産者の思いを予想したりする。				思考ツールシート・付箋への記述内容、発言
	・データから問題状況を見出し、課題を設定する。 ・データをもとに予想し、知りたいことややりたいこと（課題）をはっきりさせる。				
	・課題の解決に向けた調査活動の計画を立てる。 ・蛍米に関する状況を詳しく知るために、生産者への取材計画を作成する。		①		計画、インタビューシート
	・G・Tから、近年のお米の生産量や消費量の推移について話を聞く。 ・地域の米作り農家が抱える課題を理解する。				学習用端末
	・課題解決に向けて情報を集める。 ・情報から見つけた事象を比較・分類し、根拠を明らかにしながら課題の解決に向けて考える。		②		学習用端末
	・ここまでの成果をグループごとにまとめ、発表する。（収穫祭）				
3 PRして学校・地域に広げよう（20）	・これまでの学習の成果やお米の魅力を発信するためにPRする計画を立てる。（PR内での表現方法、絵コンテ、配役、セリフなど）			②	発言・ワークシート
	・PRのための作成に取り組む。 ・作成したものについて、他グループや先生方からアドバイスをもらう。		④		発言・絵コンテ
	・客観的な視点で課題を見出し、再考・修正する。 ・作成したものを校内、家庭や地域、関係機関に発信する。	③			学習用端末
	・学習をふり返る。 ・松東地区のお米の魅力を呼びかけることは、松東地区の活性化にもつながることに気づく。			③	行動観察



単元名【テーマ】	町づくりプロジェクト ～松東地区の魅力発見！活性化！～
探究課題	魅力ある町づくりや地域活性化のために取り組んでいる地域や組織（町づくり）
単元の目標	魅力ある町づくりのための調査・分析・表現を通して、課題解決能力や情報活用能力を養うとともに、松東地区の魅力を発信し、活性化を考える活動を通して、社会を支える一員となるための資質・能力を身に着けることができるようにする。

月	小単元	情報活用	関連教科等
4	探究1		●教科 ○地域
5	松東地区の魅力ある町づくりを探ろう		●聞いて考えを深めよう（国語）
6	25時間		●情報と情報をつなげて伝える時（国語）
7			●国の政治の仕組みと選挙（社会）
8			●子育て支援の願いを実現する政治（社会）
9	探究2		●発見、日本文化の魅力（国語）
10	松東地区の魅力ある町づくりについて発信しよう		○地域の人への聞き取り
11	25時間		●U2 Welcome to Japan 4次 (外国語)
12			●波佐谷方面 ●金野方面 ●西尾方面（スクールバス利用）
1	探究3		●資料の調べ方（算数）
2	町づくりのために、自分たちができることを考えよう		●おすすめのパンフレットを作ろう（国語）
3	20時間		

2年生の町たんけんで見つけた「町のすてき」をもっと詳しく追求して、今以上にふるさとを好きになりたいな。その魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいな

【課題設定】 松東地区にしかない自慢の魅力を調べよう
 ・食べ物＆特産品スポット，自然スポット，歴史スポット，文化芸術スポットについて調べる
 ・他の地区や外国と比べてどんな良さがあるのか調べる。
【情報収集】 3つの地区に分けて，情報を集めよう
 ・旧波佐谷小・旧金野小・旧西尾小地区に分けて分担を決める
 ・ウェブ検索，図書資料，聞き取り活動で詳しく情報収集する
【整理・分析】 見つけた魅力をシートにまとめよう
【まとめ・表現】 地区ごとの自慢の魅力を発表し合い，ふるさとの良さを交流しよう

松東地区には素敵な魅力がたくさんあることがわかった。たくさんの人にこの魅力を伝えたいな。

【課題設定】 松東地区の魅力を伝えるための方法を考え，発信しよう
【情報収集】 現地に足を運び，インタビューや撮影を記録しよう
 ・だれに発信するのか考えたり，どんな方法があるか調べたりする。
 ・日本だけでなく，外国の方にも伝えることができることを知る。
 ・ALTの先生や外国の人に松東の魅力を発表する。
 ・もっとくわしく調べ，そのお店や地域の人々の想いも聞き取る。
【整理・分析】 3地区を比較しながら，それぞれの人の想いにも焦点をあて魅力を整理する。

- 食べ物スポット** 蛭米，穀雨，村田とうふ，ビュッフエせせらぎ 赤瀬さるなし，オーフ etc
- 自然スポット** 十二ヶ滝，水芭蕉，千恵子桜，かなんぼ山，西俣キャンプ場，大倉岳スキー場 etc
- 文化・芸術家スポット** 徳田八十吉陶房，観音下石切り場，大杉ミュージカルシアター，遊墨民カズ，鷹匠 etc

【まとめ・表現②】 松東地区の魅力を世界中の人に発信しよう。
 ・PR動画を作り，石川県の人，日本中の人，世界に向けて松東の魅力を発信する。

魅力を発信することができたぞ。松東地区がさらに活性化するために何かしたいなあ。

【課題設定】 観光プランを考えて，お客さんを呼ぼう！
【情報収集】 観光プランをつくるために必要な情報を調べよう
 ・観光プランを作るために，旅行会社のパンフレットやポスター，CMを調べる。
 ・ALTに意見を聞く。
【整理・分析】 方法を決定し，発信の準備をする。
 ・観光プランを発信する方法を考える。
 ・集めた情報の中から，松東の魅力が伝わる情報をKJ法で整理し，分析する。
【まとめ・表現】 地域の人に発信しよう。
 ・観光プランをパンフレットやポスターなど発信する方法を考え，発信する。

育成を目指す情報活用能力

【課】①問題解決のために必要な情報活用の計画を立てる ②松東地区の問題を焦点化しゴールを明確にする
 【情】①インタビュー調査やフィールドワークによる情報の収集と検証を理解する
 【整】①関連付ける，多面的多角的にみる，見通す，などの技法を適切に選択・活用し，松東の町づくりについて関わりをもつ ②他の市町との相違点や類似点，規則性を見つけ，松東地区への転用や応用を意識しながら解決策を考察する ③批判的に考察しようとする
 【ま/表】②・相手に伝わるプレゼンを考える ・複数の情報を組み合わせて表現する ③聞き手とのやり取りをつくる

第6学生

みらい探究科における指導と評価の計画 【資料 3-2】

単元名	町づくりプロジェクト ～松東地区の魅力発見！活性化！～
単元の目標	魅力ある町づくりのための調査・分析・表現を通して、課題解決能力や情報活用能力を養うとともに、松東地区の魅力向上及び活性化について考え、発信し、これからの社会の創り手となるような資質・能力を身に付けることができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自分たちが住む地区には、魅力ある町づくりのための施設・自然・文化・産業があることを知るとともに、地域の町づくりに携わる人々の思いがあることを理解している。 ②地域のよさや人々の思いをつかむために、目的に応じた情報収集(インタビュー)の仕方や効果的な撮影の仕方を知る。 ③自分たちの関わりや発信が地域の活性化につながることを、探求的学習の成果であることに気づいている。	①地域の町づくりについて、取組や携わる人々の思いから、地域の良さや課題を明らかにしている。 ②地域の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考える。 ④地域の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、ポスターやショートムービーで効果的に表現している。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探求的な活動に取り組もうとしている。 ②地域の町づくりについて調べる活動を通して、他者の考えを生かしながら、協力して問題解決に取り組もうとしている。 ③地域の活性化のために自分たちにできることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。

指導と評価の計画

小単元(時間)		学習活動	知	思	主	評価方法
1	松東地区の魅力ある町づくりを探ろう (25時間)	・松東の旧3校区(旧波佐谷小・旧金野小・旧西尾小)にある地域の魅力について調べる計画を立てる。	①			ワークシート
		・効果的な写真の撮り方や魅力あるPR動画の構成について学ぶ。				行動観察 ワークシート
		・見つけた魅力の中から町興しや絆づくりにつながるものに絞って、さらに深く掘り下げる。【旧3校区(旧波佐谷小・旧金野小・旧西尾小)ごとに】		②		行動観察 ワークシート
		・調査してわかったことをまとめる。			①	スライドなど
2	松東地区の魅力ある町づくりについて発信 (25時間)	・松東地区の魅力ある町づくりについて、さらに見学したり、動画を撮影したり、取組に携わる人々にインタビュー行ったりする。		①		行動観察 インタビュー用紙
		・旧3校区ごとに、「観光ポスター」や「PR動画」の原案を作成する。(ポスターA4サイズ、文字・写真・キャッチコピー入り)(PR動画は絵コンテと20～25秒のショートムービー)	②	③		ポスター原案 動画の絵コンテ
		・魅力と人の想いが伝わる「観光ポスター」や「PR動画」を作成する。			②	ポスター PR動画 ワークシート
3	町づくりのために、自分たちにできることを考えよう (20時間)	・町づくりへの参画方法を調べたり、実行するために関係機関に依頼したりする。			③	ワークシート 依頼書
		・発信の方法を決定し、準備をする。 ・観光プランを立て、発信の準備をする。		④		行動観察
		・地域や下級生に発信する。	③			リーフレット・パンフレット・プレゼン(スライド・ポスター)

第7学年 みらい探究科 探究過程【資料3-1】



単元名 【テーマ】	松東の未来プロジェクト ～よりよい松東地区とはどんなもの～
探究課題	身近な地域社会をよりよくするための方途（町づくり）
単元の目標	探究活動を通して、私たちの身近な社会に存在している課題とその影響について理解し、「よりよい松東」にする視点から私たちの学校生活や地域を見直し、今後の自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

月	小単元	情報活用	関連教科等 ●教科 ○地域
4 5 6 7 9	<p>探究1</p> <p>当時の人々や生活を知ろう</p> <p>20時間</p> <p>【課題設定①】尾小屋の歴史を調べ、当時の人々の様子や生活を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6学年までのみら探で触れた事柄の中から、地域の課題となっていることについてウェビングで広げ共有する。 過去、現在、未来に関わる事象という点で焦点化し、尾小屋を探究することを決める。 <p>【情報収集①】尾小屋鉱山の現状はどのようになっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾小屋鉱山資料館、カラミロードなどを現地調査し、現状・歴史・良さ・課題について触れる。インタビュー、新聞、インターネットなど多様な方法で調べ情報を収集する。 四ツ目先生と出会い、情報収集する。 <p>【整理・分析①】尾小屋鉱山の当時の人々の生活を深掘りする</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾小屋鉱山の過去・今・未来で分析する。 尾小屋鉱山が抱えるメリット・デメリットについて探る。 <p>【まとめ・表現①】尾小屋鉱山についてまとめて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾小屋の歴史について、グループでスライドにまとめる。 <p>尾小屋を知る中で、活性化と衰退の歴史があることを知った。持続可能な発展とは何か。</p>	<p>【課】①</p> <p>【情】①</p> <p>【整】①</p>	<p>●情報を整理して書こう（国語）</p> <p>○校外学習</p> <p>●情報社会を生きる（国語）</p> <p>●生物育成の技術（技術）</p>
10 11 12	<p>探究2</p> <p>松東地区の持続可能な発展について考える</p> <p>23時間</p> <p>【課題設定②】松東地区について、発展の在り方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発展とはどのようなことかを見つめ直し、持続可能な発展の在り方を考える。 木場潟やジビエアトリエなど、地域資源を守りつつ発展に寄与しているモデルがあることを知る。 <p>【情報収集②】持続可能な発展に関わる活動をしている人と出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木場潟やジビエアトリエ等のロールモデルを調査する。 松東地区まつりに参加し、地区に住む人々の思いを知る。 他地域でも持続可能な形で地域を発展させている例をインターネットで調べる。 ALTに海外の状況について教わる。 <p>【整理・分析②】松東地区の発展に必要なことを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 尾小屋の例と比較し、地域の発展に不可欠な方策や考え方を見いだす。 <p>【まとめ・表現②】松東地区の持続可能な発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の発展の在り方について、自分の考えをスライドにまとめクラスで発表する。 <p>持続可能な発展の在り方を納得することができた。地域に生きる自分には何ができるかな。</p>	<p>【課】②</p> <p>【整】②</p> <p>【ま表】②</p>	<p>●南アメリカ州（社会）</p> <p>●いい木の食文化（家庭）</p>
1 2 3	<p>探究3</p> <p>自分ができることを考える</p> <p>20時間</p> <p>【課題設定③】地域の中の自分は、これからどのようにしていくとよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な地域の活性化に向けて、自分たちができることを考える。 座標軸を使い、自分のやりたいことを明確にする。（過去未来、開発伝承 など） <p>【情報収集③】自分のしたいことについて、再調査しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> グループになり、目的合わせて情報収集する。 小松大学から情報収集する、これまで出会った人に再インタビューする等、これまでの学びをさらに深める。発表原稿の中に英語表現のコーナーも設け、ALTに英作文のアドバイスをもらう。 <p>【整理・分析③】実現するために</p> <ul style="list-style-type: none"> 実現可能性を考える。 <p>【まとめ・表現③】自分ができることを発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちにできることを、目的に合わせて発信する。パンフレット、活動への参加、ポスター、冊子など これまでに関わった方々を招待し、意見交換を行う。 	<p>【整】③</p> <p>【ま表】③</p>	<p>●lesson 8 Discover Japan（英語）</p> <p>●データの活用（数学）</p> <p>●地層から読み取る大地の変化（理科）</p>

育成を目指す情報活用能力	<p>【課】①問題解決のための情報活用の計画を立てる ②松東地区が抱える問題を焦点化し、自身の地域を見つめ直すというゴールを明確化する。</p> <p>【情】①・現地調査やインタビュー等による情報の収集と検証を理解する ・情報メディアを選択する</p> <p>【整】①地域を見つめる視点に対する情報の傾向と変化を捉える ②様々な地域の類似点や規則性を見つけ、自地域への転用や応用を意識しながら解決策を考察する ③整理した情報を批判的に考察しようとする</p> <p>【ま/表】②複数の情報を組み合わせて表現する ③相手に伝わるプレゼンを考える</p>
--------------	---

第7学生 みらい探究科における指導と評価の計画 【資料 3-2】

単元名	松東の未来プロジェクト～よりよい松東地区とはどんなもの～
単元の目標	探究活動を通して、私たちの身近な社会に存在している課題とその影響について理解し、「よりよい松東」にする視点から私たちの学校生活や地域を見直し、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①探究1の活動を通じて、地域にある課題について知り、その課題が相互に関連し、複雑化していることを理解している。 ②探究2の探究活動を、自身の目的や対象に応じて適切な手法で実施している。 ③探究の課題である「よりよい松東地区」を考える活動は、地域の方途だけでなく、今後の自分の生き方にも深く関わっていることに気付いている。	①既習を整理し、自分自身で課題を設定し、見通しをもっている。 ②課題解決に必要なデータ等と調査方法を検討し、訪問時に調査を行っている。 ③自ら収集した「事実」や「調査データ」を根拠として整理・分析するとともに、その結果をグループで確かめることで妥当性を判断し合ったり、今後の方向性を見出したりしている。 ④課題や仮説に対する自分の最適解(納得解)を、相手意識をもち分かりやすく表現している。	①探究活動は「よりよい松東地区」の実現に有益であることに気づき、自分の意思で活動に取り組んでいる。 ②「よりよい松東地区」に向けて、自分の考えのみならず他者の意見を取り入れて、探究活動に取り組んでいる。 ③探究活動を通じて、地域課題の解決方法と自分の生き方を踏まえた最適解(納得解)の検討に取り組んでいる。

指導と評価の計画

小単元(時間)	学習活動	知	思	主	評価方法
1 探究1 当時の人々や生活を知ろう (20)	・第6学年までのみら探をふり返り、課題に対する見通しをもつ。		①		ワークシート 思考ツール
	・地域資料についての調査方法を検討・決定し、調査を実施する。		②		ワークシート
	・地域資料について得た知識から、人々の思いや歴史的背景があることを理解する。	①			ワークシート 発言
	・地域資料を知ることが、文化の伝承となることを理解する。			①	スライド
2 探究2 松東地区の持続可能な発展について考える (23)	・持続可能な発展についての在り方を、自身の目的や対象に応じて調査している。	②			ワークシート
	・持続可能な発展について収集した事実や調査データを根拠に、課題に対しての妥当性を判断している。				ワークシート
	・持続可能な発展について、自分の考えをもち、検討の中で他者の意見を取り入れている。			②	振り返り 発言
3 探究3 自分ができることを考える (20)	・個人が持つ懸念事項について課題を設定し、解決への見通しを持つ ・調べたことを根拠に今後の方向性を見いだす。		③		計画表 ワークシート
	・よりよい松東地区を考える活動は、地域のためだけでなく自分の生き方にもつながることに気づく。	③			振り返り・発言
	・地域課題の解決方法について、相手にわかりやすく表現している。		④	③	製作物・発表



単元名 【テーマ】	キャリアプロジェクト ～私の働く意義～
探究課題	職業の選択と社会への貢献 働くことの意義と自分の将来について考える
単元の目標	働く人々の仕事に対する姿勢や考えから働く意義を知り、職場体験を通して学んだこと及び生じた関心や疑問について探究し、職業や自分について理解を深め、自己の将来の生き方を考える。

月	小単元	情報活用	関連教科等
4	探究1 働くって何だろう 20時間	【課題設定①】 ～職場体験を通して、働く意義について考えよう～ ・働くことの意義について、自分なりの考えを持つ。 【情報収集①】 ・職場体験先の仕事内容などをインターネットやパンフレットを用いて調べる。 ・働くことの意義について、体験先の人へのインタビューや体験を通して考えを広げたり、深めたりする。 【整理・分析①】 ・インタビューや体験内容を踏まえ、働くことの意義について自分の考えを整理する。 【まとめ・表現①】 ・職場体験の活動内容と整理分析を経て導き出した働くことの意義について、具体的に記した壁新聞を作成し、クラスで発表した後、校内に掲示をする。	●働くことの目的と意義(学活) ●職場体験について(学活) ●日本の地域的特色(社会) ●自分の適性と進路(学活)
5			
6			
7			
9	探究2 私たちが直面する社会問題 32時間	【課題設定②】 ～社会で自分らしく働くためには？～ ・探究1を通して考えた自分なりの「働く意義」を振り返った上で、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等について予想してみる。書籍やインターネット等から情報を集める。 ・家族や身近にいる働く大人へのインタビューを通して、働いている人が感じている困り感などを知る。 ・行政の担当者等の講師から、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等の講話を聞き、理解を深める。 ・ALTから外国と日本の職業観や勤労観等の違いについて講話を聞き、理解を広げる。 ・将来、自分なりの「働く意義」を大切にしながら働く際に直面する現代社会の問題やその背景に関して、生徒1人1人が課題を設定する。 【情報収集②】 ・課題解決に向けて書籍やインターネット等から情報を集める。また、講師の話や様々な職業人へのインタビューを通して情報を集める。 【整理・分析②】 ・集めた情報を共通点や相違点、メリット・デメリットなどの視点から、整理・分析し、スライドにまとめる。 ・スライドにまとめたものを発表し、課題に関して意見を出し合う。出し合った意見を元に、課題に対する理解を深めていく。 【まとめ・表現②】 ・スライドにまとめたものをクラスで発表する。	○職場体験先の方々 ●Project 1 My Dream (英語) Part 1 ○地域の事業所 ●日本の諸地域(社会) ●衣生活(家庭)
10			
11			
12			
1	探究3 私の進路 18時間	【課題設定③】 ～卒業後の進路を考えよう～ ・自分の職業観に合った卒業後の進路について考える。 【情報収集③】 ・卒業後の自分の進路についてインターネットや書籍を用いて情報を集める。 【整理・分析③】 ・現在考えている進路が自分の職業観に合っているか分析し整理する。 【まとめ・表現③】 ・卒業後の進路についてレポートにまとめ、クラスで発表する。 ・ALTに将来の夢について英語で発表する。	○文化祭 ●高校調べ(学活) ○高校見学 ●情報社会を生きる(国語) ●データを比較して判断しよう(数学)
2			
3			

育成を目指す 情報活用能力	<p>【課】①働く意義について考えるために、調べ学習や職場体験学習など複数の計画を立案する。②将来自分らしく働く際に直面する社会問題等や卒業後の進学先について調べるために、情報活用の計画を立て、最適化する。</p> <p>【情】①職場体験学習やインタビューなど、調査を設計する。②インターネットや生成AI、書籍など情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索する。</p> <p>【整】①自らの調べ学習や職場体験学習を踏まえ、批判的に考察し、判断する。②グループで課題に対する考えを発表する。</p> <p>【ま/表】③探究の目的や意図に応じて情報を統合し、表現する。</p>
------------------	---

第8学年

みらい探究科における指導と評価の計画 【資料 3-2】

単元名	未来プロジェクト ～私も働かなきゃ？～
単元の目標	働く人々の仕事に対する姿勢や考えから働く意義を知り、職場体験を通して学んだこと及び生じた関心や疑問について探求し、職業や自分について理解を深め、自己の将来の生き方と職業との関連性を考えられるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①社会に出て働くために職業へとつながる進路選択の情報収集が必要不可欠であることを理解している。 ②調査・体験活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③職場体験などを通して探究的に学習してきたことは、自らの働く意義や将来への見通しにつながっていることを理解している。	①職場体験やそこで働く人との関わりを通して感じた関心をもとに仮説を設定し、解決の見通しをもっている。 ②課題の解決に必要なデータ等をどのように収集するかを選択したり、調査内容や方法を工夫したりしている。 ③個人でデータを分類したり整理したり関連付けたりして分析・考察し、さらに対話を通して考察を深め、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ④課題に対する自分の最適解(納得解)を、相手意識をもち分かりやすく表現している。	①探究活動を通して、自ら設定した課題が、職業と自己の将来と深く関係していることに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②働くことの意義と自己の将来の生き方との関連性の理解に向けて、自分の考えに他者の意見を取り入れて、探究活動に取り組んでいる。 ③探究活動を通して、自己の将来の生き方について今の自分にできることや必要なことを見つけようとしている。

指導と評価の計画

小単元(時間)	学習活動	知	思	主	評価方法
1 探究1 体験を通して学ぶ 「働く意義」 ～何のためにわたしたちは働く？～ (20)	・働くことの意義について、自分なりの考えを持つ。				
	・職場体験先の仕事内容などをインターネットやパンフレットを用いて調べる。				
	・働くことの意義について、体験先の人へのインタビューや体験を通して考えを広げたり、深めたりする。				
	・インタビューや体験内容を踏まえ、働くことの意義について自分の考えを整理する。		①		・ワークシート
2 探究2 私たちが直面する社会問題 ～社会で自分らしく働くためには？～ (32)	・職場体験の活動内容と整理分析を経て導き出した働くことの意義について、具体的に記した壁新聞を作成し、クラスで発表した後、校内に掲示をする。				① ・壁新聞
	・探究1を通して考えた自分なりの「働く意義」を振り返った上で、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等について予想してみる。書籍やインターネットから情報を集める。	①			・ワークシート
	・家族や身近にいる働く大人へのインタビューを通して、働いている人が感じている困り感などを知る。				
	・行政の担当者等の講師から、現代社会が抱える職業や勤労に関する問題等の講話を聞き、理解を深める。	②			・ワークシート
	・ALTから外国と日本の職業観や勤労観等の違いについて講話を聞き、理解を広げる。				
	・将来、自分なりの「働く意義」を大切にしながら働く際に直面する現代社会の問題やその背景に関して、生徒1人1人が課題を設定する。				② ・取り組みの姿勢
	・課題解決のための手段や方法を考える。				
	・課題解決に向けて書籍やインターネットから情報を集める。また、講師の話や様々な職業人へのインタビューを通して情報を集める。[A]		②		・スライド ・取り組みの姿勢
3 探究3 卒業後の進路 ～卒業後の進路を考えよう～ (18)	・集めた情報をメリット・デメリットで分類、データをグラフ化するなどして整理・分析し、スライドにまとめる。[B]				
	・スライドにまとめたものをグループで発表し、課題に関して意見を出し合う。出し合った意見を元に、課題に対する理解を深めていく。[C 中間発表]			③	・対話の様子 ・スライド ・ワークシート
	・スライドにまとめたものをクラスで発表する。			④	・発表の様子
	・自分の職業観や勤労観に合った卒業後の進路について考える。				
・卒業後の自分の進路についてインターネットや書籍を用いて情報を集める。				③ ・ワークシート	
・現在考えている進路が自分の職業観に合っているか分析し整理する。	③			・ワークシート	
・卒業後の進路についてレポートにまとめ、クラスで発表する。				・レポート	

第9学年 みらい探究科 探究過程【資料 3-1】



単元名 【テーマ】	ウェルビーイングプロジェクト ～自分にとっても周りの人にとっても、より良い社会とは？～
探究課題	よりよい社会への展望を持ち具現化するために必要な方法を考える。
単元の目標	これまで学習してきた事柄を総合し、日本や地域社会の課題から、よりよい社会実現のための納得解（最適解）を、現状を取材・分析しながら探究し、自己の関わり方について考察する。

月	小単元	情報活用	関連教科等
4	探究1 よりよい社会とは 30時間	【課】① 【情】① 【整】①	●教科 ○地域 ●家族・家庭生活（家庭） ●情報を整理して書く（国語） ●Project1 旅行プランの提案（英語） ●情報社会を生きる（国語） ●私たちの生活と現代社会（社会）
5			
6			
7			
9			
10			
7	探究2 みんなが幸せになる社会とは 40時間	【課】② 【情】② 【整】②	○修学旅行 ●計測制御によるプログラミングによる問題解決（技術） ●集団の傾向を推測しよう（数学） ●Lesson 6 Being Fair（英語） ●国の政治の仕組み（社会） ●地方自治と住民（社会） ●地球と私たちの未来のために（理科） ●消費生活・環境（家庭）
9			
10			
11			
12			
1			
2			

育成を目指す情報活用能力	【課】① より良い社会とはどんな社会なのか調べるために、情報活用の計画を立て、最適化する。 ② 今自分たちが抱えている問題の解決のために、複数の計画を立案する。 【情】① インターネットや生成AI、書籍など情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索する。 ② 領域と範囲を設定し、調査を設計する。 【整】① 目的や状況に応じて、グラフや表を使って統計的に整理する。 ② 「考える技法」を組み合わせ活用し、批判的に考察し、判断する。 【ま/表】② 探究の目的や意図に応じて情報を統合し、表現する。
--------------	---

第9学生 みらい探究科における指導と評価の計画 【資料 3-2】

単元名	ウェルビーイングプロジェクト ～自分にとっても周りの人にとっても、より良い社会とは？～
単元の目標	これまで学習してきた事柄を総合し、日本や地域社会の課題から、よりよい社会実現のための納得解(最適解)を、現状を取材・分析しながら探究し、自己の関わり方について考察する。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 社会にある課題について知り、その課題が相互に関連し、複雑化していることを理解している。 ② 探究活動を、自身の目的や対象に応じて適切な手法で実施している。 ③ 「より良い社会」を考える探究活動は社会の方途だけでなく、今後の自分の生き方にも深く関わっていることに気づいている。	① 第8学年までの既習を整理し、課題解決のための計画を検討している。 ② 探究計画の実行に必要なデータ等と調査方法を検討し、調査を行っている。 ③ 自ら収集した「事実」や「調査データ」を根拠として、探究計画の妥当性を分析・検証するとともに、その結果をグループで確かめることで妥当性を判断し合ったり、今後の方向性を見出したりしている。 ④ 課題に対する自分の最適解(納得解)を、相手意識をもち分かりやすく表現している。	① 探究1を通して、探究活動は「よりよい社会」の実現に有益であることに気づき、自分の意思で活動に取り組んでいる。 ② 「よりよい社会」に向けて、自分の考えのみならず他者の意見を取り入れて、探究2の探究活動に取り組んでいる。 ③ 探究活動を通じて、社会課題の解決方法と自分の生き方を踏まえた最適解(納得解)の検討に取り組んでいる。

指導と評価の計画

小単元(時間)	学習活動	知	思	主	評価方法
1 探究1 よりよい社会とは (25時間)	第8学年までの既習を整理し、課題解決のためのテーマを検討することができる。		①		・発言 ・計画書
	探究1の探究活動を、自身の目的や対象に応じて検討することができる。	②			・発言 ・ワークシート
	探究1の計画の実行に必要なデータ等と調査方法を検討し、インタビュー等の調査を行うことができる。		②		・取り組み ・ワークシート
	探究1を通して、探究活動は「よりよい社会」の実現に有益であることに気づき、自分の意思で活動に取り組むことができる。			①	・発言 ・ワークシート
	探究1の探究活動を通じて、社会にある課題について知り、その課題が相互に関連し、複雑化していることを理解することができる。	①			・発表
2 探究2 みんなが幸せになる社会とは (45時間)	「よりよい社会」に向けて、自分の考えのみならず他者の意見を取り入れて、探究2の探究活動に取り組むことができる。			②	・発言 ・ワークシート
	自ら収集した「事実」や「調査データ」を根拠として、探究計画の妥当性を分析・検証するとともに、その結果をグループで確かめることで妥当性を判断し合ったり、今後の方向性を見出したりすることができる。		③		・発言 ・ワークシート
	課題に対する自分の最適解(納得解)を、相手意識をもち分かりやすく表現することができる。		④		・発言 ・ワークシート
	探究活動を通じて、地域課題の解決方法と自分の生き方を踏まえた納得解(最適解)の検討に取り組むことができる。			③	・発言 ・ワークシート
	「よりよい社会」を考える探究活動は、社会の方途だけでなく、今後の自分の生き方にも深く関わっていることに気づくことができる。	③			・発言 ・発表 ・ポスター